



平成12年7月10日 NO11
土浦地域農業改良普及センター

土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
電話 0298(22)8511
内線 250~261
FAX 0298(24)0918

大粒の米づくりを実践中! 「ふっくらコシヒカリ」



この運動を契機に「土浦地域が茨城産米の品質をリードする」そういう産地づくりに取り組んでいきたいと考えています。

現在、土浦普及センター管内では大粒の米づくり運動(ふっくらコシヒカリ運動)を推進中で、今年、二年目を迎えました。

霞ヶ浦をきれいにしよう

平成十一年度 認定者紹介

農業経営士



米山 繁 (49才)
霞ヶ浦町栄倉

青年農業士



塚崎 英夫 (33才)
新治村藤沢



福田 一男 (36才)
玉里村下玉里

牛群検定を積極的に活用し、乳量質の改善に取り組み一方、常に新しい情報を収集し、経営改善に努めている。また、農業分野以外でも青少年相談員として、青少年の非行防止と健全教育を図るなど活動している。

露地と施設の組み合わせにより鉢物バラを栽培。消費動向に応じた新品種の導入も積極的に進めている。新治バラ園芸組合に所属し内部リーダーとして活躍中である。

ハウスと露地のレンコンを取入れ、周年出荷体制を実施しているレンコン専作農家である。

花木ポットと果樹苗木生産を中心とした経営で需要の高い種々の花木品目を導入、栽培をしている。フラワーサクセスクラブに加入、活動にリーダーシップを発揮中。

女性農業士



高橋 洋子
土浦市西根

農業は、土づくりと、輪作計画に基づいて多品目野菜を作物。消費者ニーズに合った出荷を進めるなどパートナーシップを発揮。地域リーダーとして期待される。



本田 薫 (34才)
石岡市三村

施設キュウリ主体の経営で栽培技術はトップレベルである。施設園芸研究会石岡支部副支部長も歴任し、部会活動の活性化に努力、部会員からの信望も厚い。

養豚+レンコンの複合経営で、生協出荷を利用し、所得の確保を図っている。玉里レンコン研究会及び農協青年部に所属し、活動にリーダーシップを発揮している。



久保田幸雄 (32才)
玉里村下玉里

イチゴ十稜の経営で本人はイチゴを主体の栽培に取り組んでいる。JA八郷苺組合に加入し、技術、経営の向上を図りながら組織活動にリーダー的役割を果している。



小林 賢次 (35才)
千代田町横堀

普及センター職員の異動

センター長	堀島 喜佐人
次長兼地域普及課長	野沢 和夫
主査兼経営生活課長	高橋 一憲
主査兼園芸課長	小河原 憲
園芸課長	下田 久
専門員	水野 仁志
職員	松木 美里

転入者

保立 義尊	本橋 修二
栗原 久弥	保坂 光良
寺川 公博	清水 裕
猿田 忠悦	仲田 真由美

土づくりを行いましょう



JA茨城千代田直販部会
代表 福田 かつ子

がんばっています

千代田町神立駅近くのフレッシュ野菜直売所をご存じだろうか。毎週水曜日と土曜日、朝八時より新鮮な朝取り野菜や果物、花、漬物等を並べ、朝市を開いている。朝市当日は、開店を待ちきれず、荷を降ろす側から売れてしまうほどの盛況ぶりである。この直売所を運営しているのが、JA茨城千代田直販部会(福田かつ子会長)三〇名である。直販部会は、農村女性大学(普及センター主催)修了生が結成

したグループが中心となり、たくさんの賛同を得、平成四年にJAの協力のもと、部会として発足した。当初は、品数や、品揃えも一苦労であったが、野菜作り講習や、先進地研修等を重ね、今は、自信作が所狭しと並んでいる。又、季節の旬を味わうイベントとして、新じゃが祭りや梨祭り等を行い、収穫の喜びを消費者と共に味わい交流を深めている。パワーあふれる朝市に是非立ち寄りて欲しい。

活性化センター直売所オープン
地元で採れた季節の野菜・果物・水産品を販売する直売所が四月二十二日、同町実倉にオープンした。センター運営には住民約百人が携わって、「町内外の人たちに、新鮮な安全・安心野菜を味わってほしい」と多数の来場を呼びかけている。オープン初日は、イベントも計画され約一五〇〇人の来場者があったとか。町の活性化への拠点として期待されている施設である。営業時間は毎週土・日の午前十時から午後六時まで。

この口蹄疫、家畜伝染病でとてもおそろしい病気です。感染源は現在特定されていませんが、輸入ワラが一つの原因ではないかと疑われています。今回の口蹄疫騒動で、稲ワラの価格が上昇気配です。日本では、年間約22万トンの稲ワラが輸入されていますが、輸入ワラに対する警戒感が強まり、稲ワラの価格が上昇しているものと思われま

畜産農家が稲ワラをほしがっています。今年三月、宮崎県の肥育牛農家で日本では九十年ぶりに口蹄疫が発生しました。それが収まったと思ったら五月には北海道での発生です。

稲ワラの話

日本の稲ワラ生産量は約90万トンですが、その約62%、550万トンが焼却・鋤込みされているのが実情です。農業全体の落ち込みが激しい中、有効な資源をみすみす煙としてしまうのは、実にもったいない話です。稲作農家が発想の転換をするだけで、もう少し売上げを伸ばせるかもしれません。畜産農家でも、国内産の稲ワラを欲しがっています。特に身近な稲ワラが手に入れば、業者を通さずに自分で集めることも出来るし、稲作農家の希望によっては、堆肥との交換も可能になります。まさに地域循環型農業の観点からも、うってつけです。

稲作農家の方は、稲ワラを作業効率面から焼却・鋤込みすることばかり考えず、地域資源として見直し、活用する方法を考えてみてはどうでしょうか。

町から村から

八郷町

「やさとのふくらコシヒカリ米」
八郷町は、平成一三年度、町のブランド米生産振興のために、「ふくら八郷米推進事業」を予算化し、スタートさせた。これは、「ふくらコシヒカリ」づくりを実践してもらい、更に一・九ミリで調整し、「八郷のふくらコシヒカリ米」として、生協や直売所で販売するもので、六月には生産農家、役場・農協一体となって巡回現地研究会を行った。

ほ場には「やさと・ふくらこしひかりの里」の旗を設置し、直売所などには手づくりのミニ俵を飾り、広くPRも図る計画で、各方面から期待が寄せられている。

土浦市

種ハスの選定・増殖に取り組む
土浦市レンコン研究会(矢口章会長・会員二三名)では、今年度から10aの休耕田を借り上げ優良種ハスの選定と増殖に取り組んでいる。

土浦市は日本一のレンコン産地でありながら、品種へのこの様な生産者自身の組織的な取り組みは少なく、今まで積極的な一部のプロデューサー個人によって対応がなされてきた。今回、系統・任意・商系出荷の後継者からなる研究会員が一丸となって優良種ハス確保に取り組んだことは、産地の将来を認識した後継者ならではの積極的な活動と、その成果が大いに期待される。今年有望視されている三品種を植付け、来春には選抜を実施し会員に配布する予定である。また、数年後には優良種を一般にも配布する計画も立てている。

霞ヶ浦町

活性化センター直売所オープン
地元で採れた季節の野菜・果物・水産品を販売する直売所が四月二十二日、同町実倉にオープンした。センター運営には住民約百人が携わって、「町内外の人たちに、新鮮な安全・安心野菜を味わってほしい」と多数の来場を呼びかけている。オープン初日は、イベントも計画され約一五〇〇人の来場者があったとか。町の活性化への拠点として期待されている施設である。営業時間は毎週土・日の午前十時から午後六時まで。

インフォメーション & マネージメント

先行き不透明な農業情勢の中で、借入金を増やさないことが先決ですが、もし規模拡大を図るために大型機械を導入しなくてはならない場合、あなたはどうか考えるでしょうか。

この超低金利時代の中、どの制度資金を利用して大きな差は無いとお考えではないでしょうか。それは大きな間違いです。この低金利時代には少しでも有利な資金をきちんと見極めて利用することが重要です。

例えば、仮に定期預金一〇〇〇万円があるから、解約してコンバインを購入した場合と無利子の農業改良資金を利用した場合とでは、定期預金金利が1.5%でも、年に十五万円(税引き前)の利子が付くはずで、それに緊急を要する支出が起った場合、預貯金は重要になります。

無利子の制度資金は農業改良資金だけで、他の制度資金は利子が発生します。

しかし、農業改良資金は、制度資金でありますから、ある一定の要件と約束事があります。それをきちんと守っていただいたうえで、ご利用をお願いいたします。詳しくは最寄りのJAか普及センターまでお問い合わせ下さい。

農業改良資金

資金の種類・種目	貸付対象事業
水田農業生産性向上等資金	水田農業の規模拡大、省力化、転作物の生産加工に必要な施設・機械。 (トラクター、田植機、コンバイン、ロータリー、ハウス、排水・土壌改良等)
畑作技術合理化資金	作付体系合理化、省力化、品質改善(併せ行う加工)に必要な施設・機械。 (トラクター、カルチベーター、播種機、ハーベスター、排水・土壌改良等)
果樹栽培合理化資金	高品質化、省力化、複合化に必要な施設、機械。 (深層施肥機、ハウス、スピードスプレヤー、新植、改植、高接ぎ、排水・土壌改良等)
野菜生産高度化資金	作柄安定、施設経営改善、省力化に必要な施設、機械。 (ハウス、複合環境制御装置、養液栽培装置、衛生管理施設、ロータリー、播種機、収穫機、育苗施設、予冷貯蔵施設、選果施設、堆肥施設等)
花き生産高度化資金	品質改善、施設経営改善、省力化に必要な施設、機械。 (ハウス、複合環境制御装置、ロックウール、底面給水、カーテン、かん水、防除施設、結束機、低温貯蔵庫等)
畜産振興資金	飼料の自給度向上又は、飼料作物の作付条件整備に必要な施設、機械。 乳牛、肉用牛、豚の飼養管理方法を改善(肉用は規模拡大も含む)するために必要な施設・機械。 乳牛、肉用牛、豚の購入費及び乳牛、肉用牛の育成費。
生産環境改善資金	農業生産環境の悪化防止に必要な施設、機械。 (自動噴霧、発酵、脱臭、浄化施設、透湿性フィルム、自動防除施設等)
環境保全型農業導入資金	有機農業、減農薬、減科学肥料栽培に必要な施設、機械。 (トラクター、マニユアスプレッター、雑草刈取機等)
地域農業技術導入資金	※県が国と協議して定めた下記の資金
生活改善資金	農家・高齢者のグループが自主的な創作活動を行うのに必要な設備費、器材費、資材費、教材費等。
青年等育成資金	能率的経営管理を習得するためのパソコン、ソフト、ファクシミリ等。能率的経営技術を習得するための研修費。
農業経営開始資金	農業経営の開始に必要な施設、機械、初度的経費。

普及だより

平成13年3月10日 NO12
 土浦地域農業改良普及センター
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F
 土浦市真鍋5-17-26
 電話 0298(22)8511
 内線 250~261
 FAX 0298(24)0918

元気の出る梨づくり



大玉・多収穫^{プラス}美味しい梨づくりの取り組み

梨栽培を取り巻く情勢は、高樹齢園の増加、生産者の高齢化、単価の低迷などから年々厳しくなってきました。

普及センターでは、これまで三年間、梨の大玉多収穫を目指した取り組みを展開してきました。管内に十三ヶ所の展示圃を設け、ここを拠点に予備枝を多めに配置して樹勢回復を図り、側枝を適正配置して生産性の向上を図ってきました。この結果、一定の成果が見られてきているところですが、今後も更に推進を図って行きます。

一方、経済の低迷、価格破壊の時代と合わせて、巷に商品が溢れかえり選択肢が増えたこともあり、消費者の商品(梨)に対する目は非常に厳しくなっています。

これからは、大きいものを沢山作るだけでは勝ち残っていけない時代です。原点に帰った美味しく安全な梨作りが重要となります。これまでの技術に加え、土作りを重視した美味しい梨作りを目指した活動を展開して行こうと考えています。

霞ヶ浦をきれいにしよう

平成十二年度認定者紹介

農業経営士



栗原 仁 (50才)
新治村上坂田

ヤナギ・葉物を中心とした大規模生産・周年出荷栽培で、常に新品種を積極的に導入し、JA土浦花卉部会の初代新治支部長として、生産技術・経営能力及び人格的にも優れ、地域農業育成リーダーとして指導力を発揮しています。

農業経営士



久家 政輝 (50才)
八郷町下林

ブドウの高品質安定生産を図るため、栽培の90%を雨除けとし、肥料は粉がら堆肥、米糠、骨粉、魚粉、油粕等を活用した有機栽培で、環境に優しい農業を実践しています。また八郷町ブドウ組合副組合長と

青年農業士



市川 浩文 (31才)
千代田町栗田

して、地域農業振興に取り組んでいます。

青年農業士



外塚 正義 (30才)
千代田町新治

梨を中心に苗木、水稲を加えた複合経営を実施し、経営の安定を図っています。梨栽培では研修で学んだ予備枝せん定を上手に取り入れ大玉生産を行っています。

新規参入者



阿部 豊さん

広島県出身の阿部豊さんは、八郷町で有機農業を始めて十年になりました。非農家出身ですが、水戸市に在住の際、八郷町の産直グループ活動を知り、八郷町の様々な農家との交流のなかで、農業を職業として選択するに至りました。現在は、一つの農産物を丁寧生産し、産直・宅配など、消費者の顔が見える活動を中心に行っています。地元農協の「有機栽培部会」に所属し、有機農業に関する情報収集に努めています。八郷町には、ここ数年多くの新規参入者が就農していますが、そのような人達のみならず、信頼されている人でもあります。八郷町の豊かな自然・資源を活かしながら、農業を楽しみたいと笑顔で抱負を語っていただきました。

「頑張ってます」



村田 祥一さん

石岡市三村で鉢物生産に取り組んでいる村田さんは、今年で就農3年目を迎えます。以前は、製薬会社に勤務していましたが、平成9年に、農業に興味があったことから就農準備校(鯉淵学園)に入校し、翌年には鉢物生産農家(石岡市・宏美園芸)で研修し、平成11年には10aのハウスを建て、鉢物生産がはじまりました。現在は、シクラメン・カーネーション・ゼラニウムを経営の柱としています。12月のシクラメンの時期には、直売も行っており、各方面から買いに来るようです。今後は、ホームページなどを利用しながら直売を行い、市場と直売のバランスを考慮しながら、めずらしい品目品種を取り入れ、自分のオリジナルティー出していこうと考えています。

土づくりを行ないましょう

これは早期中干しの徹底（坪当たり1200本、1株当たり20〜22本に

	千粒重 (g)	ふるい目 1.9ミリ上(%)	収量 (kg/10a)
目標	21.5	90	510
2000年産	21.7	89.8	564
1999年産	21.4	91.9	514

(表) ふっくらコシヒカリ成績

もうすっかり定着した感のある「ふっくらコシヒカリ」運動。この運動は茨城米の弱点（小粒で未熟米が多い）を克服し、土浦地域米の品質向上を図り、ひいては農家所得の向上につながるかねらいます。2000年産の米は昨年以上に大粒に仕上がりに、収量もアップしました。

また、今年からJAやさと、JAひたち野の管内で「ふっくらコシヒカリづくり」を実践しはじめました（約9ha）。収穫した米はふっくらコシヒカリ品質基準（千粒重21・5g



ふっくらコシヒカリ品質検査 (JAひたち野)

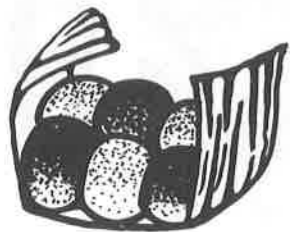
なったら中干し開始」と穂肥の適期（出穂前15日、幼穂長4cm・適量（10a当たりチッソ成分で1〜2kg）の結果と確信しています。

今後は、この「ふっくらコシヒカリ」づくりを広く普及させ、売れる米「ふっくらコシヒカリ」の定着に取り組んでいきます。



ふっくらコシヒカリ製品 (JAやさと)

以上、1・9ミリ調製、玄米水分14・5〜15%、白米粗タンパク6・5%以下）に適合したものののみ農協の直売所等で販売しています。



防暑作業衣「涼かちゃん」

昨年夏の夏、遮光ネット（遮光率80%ダイオミラー）を利用して作った帽子が人気を呼びました。麦藁帽子の後ろ半分に遮光ネットのタレをつけた物です。日差しが強い時や真夏の暑い時期の露地における防暑対策として有効です。帽子着用時と着用しない時では、皮膚温で2℃の差が見られました。市販されていますし、遮光ネットを購入し、自分で麦藁帽子につけることもできます。詳しくは、普及センターまでお尋ね下さい。

農作業衣の工夫



フラワーアレンジ

の姿も見られました。

元気のでる梨づくり

梨大玉・多収穫運動の成果

普及センターでは平成10年度から13ヶ所のモデルほ場を設置し、「大玉・多収穫運動」に取り組んできましたが、その成果についてご紹介します。

まず、今年度の成績ですが、春先に降雪による被害が数回ありましたが、その後好天に恵まれたこともあり、幸水における目標値収量3t、2L以上率80%に対し、平均3・1t、2L以上率79%と、大変好成绩をあげられました。

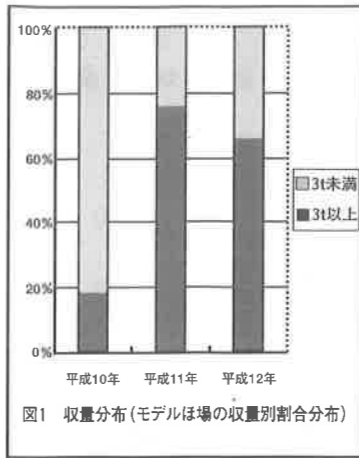


図1 収量分布 (モデルほ場の収量別割合分布)

続いて、3ヶ年の取り組み結果についてですが、図1、図2は3ヶ年における収量3t以上、大玉率80%以上であった人の割合の推移です。これらの結果を見ますと、全体の傾向として高収量、大玉化が進んでい

ることがわかります。これらモデルほ場は平均樹齢が30年というところで、一般に収量が下り坂になる高樹齢の園が中心でした。こうした園においても、主に剪定改善によって十分な収量・大玉生産が可能であることの証明となりました。

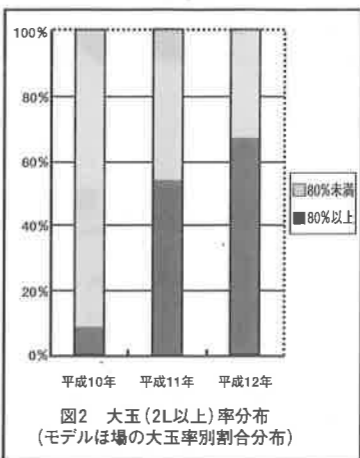


図2 大玉(2L以上)率分布 (モデルほ場の大玉率別割合分布)

では、どのようにして大玉多収穫が可能となったかですが、側枝、予備枝数は年や園による幅はあるもの

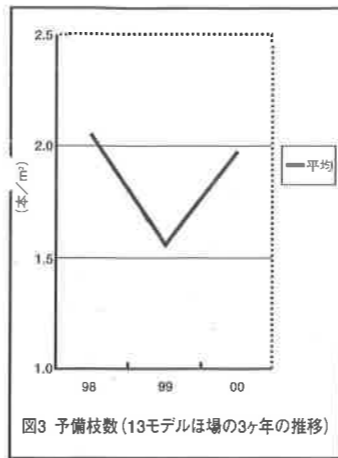


図3 予備枝数 (13モデルほ場の3ヶ年の推移)

の、平均ではそれぞれ2本前後であり、そのバランスはおおよそ1対1となっています。(図3、図4)

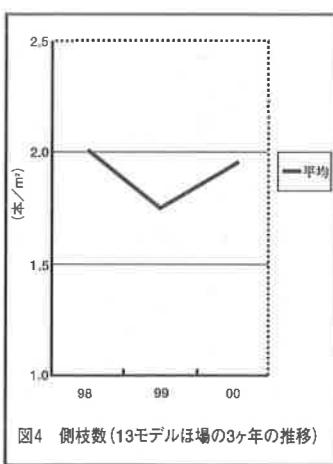


図4 側枝数 (13モデルほ場の3ヶ年の推移)

高樹齢園では樹勢維持、向上には予備枝の積極的活動が欠かせません。その結果として収穫果数の増加へとつながったと言えます。(図5)

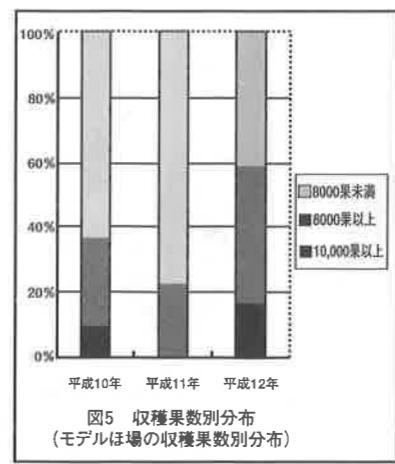


図5 収穫果数別分布 (モデルほ場の収穫果数別分布)

ただし着果数を確保しつつ大玉とするには剪定後の摘蕾、早期摘果、5〜6月に追肥を行うなど総合的な管理が求められます。また昨年の雹害などを思えば多目的防災網設置も必要でしょう。

後継者

東京でレンコンPR

11月18日、東京都数寄屋橋公園において、土浦・玉里レンコン研究会がレンコンの消費拡大を目的に無料配布を行いました。主婦層だけでなく若い女性等も興味を示し千袋用意したレンコンは一時間弱で完売しました。同時にアンケート調査も実施したところ、食感を楽しむ調理方法で主に食べられ、価格は約半数が適当と感じていることがわかりました。



レンコン消費拡大PR

フラワーアレンジ交流

11月25日、茨城県フラワーパークにおいて、花き栽培後継者が講師となりフラワーアレンジと寄植講座を開催し、一般消費者と交流を深めました。講座で使った花材の一部は後継者が栽培したもので、参加者へ自分の農業への取組姿勢をおおいにPRできました。また鉢物の栽培管理等の質問に丁寧に対応する後継者



平成13年7月25日 NO13

土浦地域農業改良普及センター

土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
電話 0298(22)8511
内線 250~261
FAX 0298(24)0918

21世紀に勝ち残る 企業的農業経営セミナー

認定農業者 経営改善に向けて 家族経営協定を考える



平成十三年三月十三日 千代田町中央公民館において、管内認定農業者及び関係者約七〇名が集まり、認定農業者経営セミナーを開催しました。

まず、「認定農業者の現状とメリット」。「男女共同参画の動きと家族経営協定」について、普及センターから説明した後、本題の「明るく楽しい農業経営」と題して講師 宝井琴桜氏(女性)から講演がありました。

男女共同参画社会や家族経営協定の内容を「農家 山下さんち」を例に、親子夫婦が経営、生活のとりきめを行うことにより、家族一人一人の役割がはっきりし、経営の向上につながる等、講談仕立の話で非常にわかりやすい内容でした。

講演を聴いた認定農業者(男性)の感想は、「もともとまだ考えなくては、男が損してしまうのでは」等賛否両論でしたが、多くの男性に、経営改善の一つとしての、家族経営協定について、理解が深まり、非常に有意義なセミナーでした。

ちなみに、平成十二年度は土浦地域で四組が家族経営協定を結びました。他地域に比べると少ない数ですが、この動きは確実に広がっています。

普及センターでは、今年度も経営改善や、担手確保の有効な手段として、家族経営協定を勧める一方、パソコン簿記講座等を開催し、経営改善の支援を行っています。

経営改善・家族経営協定についてご意見・質問がありましたら、普及センターに気軽にご相談ください。

霞ヶ浦をきれいにしよう

特別栽培農産物認証制度について

○制度の目的

この制度は平成十三年五月一日、新たに制定されました。認証制度とは、農薬や化学肥料を削減するなど一定の要件を満たして生産された農産物を特別栽培農産物として、茨城県が認める制度です。認証を受けた農産物は、販売する際に認証マークを添付して販売することができます。

この制度によって、消費者の信頼を高めるとともに、これらの農産物の生産を促進することを目的としています。

○対象農産物

対象農産物は野菜、果物、米などです。現在は十八品目ですが、認証基準が整理された品目や作型を順次追加していきます。(表1)

○認証の区分

認証の区分は、農薬や化学肥料の使用状況により、無農薬栽培農産物や無化学肥料栽培農産物などの八区分となっています。(表2)

○認証申請の提出期間

栽培開始時期が一月から六月までの農産物及び多年生農産物は、栽培開始前年の十一月。

栽培開始時期が七月から十二月までの農産物は、栽培開始前年の五月。

●特別栽培農産物として認証された玄米を使用したとう精は、とう精開始年の八月。

○認証申請の仕組み

認証を受けるためには、まず生産開始前に、生産者が認証申請書と栽培計画書を作成します。この際生産者が適切に生産・出荷を行うよう指導できる方、例えば、農協の生産部会長等を栽培責任者として定めます。さらに直接生産活動に携わらず、地域農業に精通し、技術的指導のできる方、例えば農協の営農指導員等を確認責任者として委託することが必要となります。確認責任者は、県に登録し、栽培責任者が栽培管理等を適切に行っていることを確認する業務を行います。

次に、この確認責任者は、栽培責任者が作成した申請書や栽培計画の内容を確認して、市町村を経由し総合事務所に提出します。総合事務所では、認証委員会を開き、計画書を審査し、承認の可否を決めます。

承認されると市町村を経由して確認責任者から栽培責任者へ通知され、特別栽培農産物の生産を始めることができます。栽培期間中は、栽培計画に基づく栽培管理とその記録を行うと

表1 対象農産物

農産物名	作	型
米		
ハクサイ	春ハクサイ、秋冬ハクサイ	
ネギ	坊主不知、夏ネギ、秋冬ネギ	
トウモロコシ		
カボチャ	ハウス、トンネル	
サヤインゲン	露地	
ゴボウ	春まき	
ニンジン	春まき、秋冬どり	
レンコン	露地普通	
サトイモ	普通掘り	
カンショ		
チンゲンサイ	ハウス(11月~4月)、ハウス(5月~10月)、露地栽培	
大玉スイカ	ハウス、トンネル	
こだまスイカ	ハウス半促成	
梨	ハウス(幸水)、露地(幸水、豊水)	
巨峰		
柿		
栗		

ともに、ほ場には、看板を設置します。また、確認責任者は随時、栽培管理の確認を行います。

出荷二〜三週間前になると、認証マークの貼付申請を行います。栽培責任者は、申請書と栽培記録簿を確認し、生産者から総合事務所へ提出します。認証委員会が審査の結果、承認されると特別栽培農産物の認証マークを農産物に添付して出荷できるようになります。

出荷が終了すると栽培責任者は、出荷実績報告を確認責任者から総合事務所に行い、特別栽培農産物の認証が終了します。

詳しい内容については、総合事務所農業課、又は普及センターに問い合わせ下さい。

表2 特別栽培農産物認証の区分

区分	定義
無農薬栽培農産物	当該農産物の生産過程等において、農薬を使用しない栽培方法により生産された農産物
無化学肥料栽培農産物	当該農産物の生産過程等において、化学肥料を使用しない栽培方法により生産された農産物
減農薬栽培農産物	当該農産物の生産過程等において、化学合成農薬の使用が慣行の使用回数の5割以下(土壌消毒剤、除草剤等を含めた使用回数の合計を比較するものとする。)の栽培方法により生産された農産物
減化学肥料栽培農産物	当該農産物の生産過程等において、化学肥料の使用が慣行の使用量の5割以下(化学肥料の窒素成分量を比較するものとする。)の栽培方法により生産された農産物
無農薬・無化学肥料栽培農産物	当該農産物の生産過程等において、農薬及び化学肥料を使用しない栽培方法により生産された農産物
無農薬・減化学肥料栽培農産物	当該農産物の生産過程等において、農薬を使用しない栽培方法であり、かつ、化学肥料の使用が慣行の使用量の5割以下の栽培方法により生産された農産物
減農薬・無化学肥料栽培農産物	当該農産物の生産過程等において、化学肥料を使用しない栽培方法であり、かつ、化学合成農薬の使用が慣行の使用回数の5割以下の栽培方法により生産された農産物
減農薬・減化学肥料栽培農産物	当該農産物の生産過程等において、化学合成農薬及び化学肥料の使用が慣行の使用回数及び使用量の5割以下の栽培方法により生産された農産物

土づくりを行いましょ

ナシを気象災害から守る

ナシの防災対策 (霜害、雹害を踏まえて)

近年、気象災害が頻発するようになり、土浦管内でも昨年、今年と続けてナシなど果樹に被害がありました。

温暖化傾向などから、今後とも気象災害の多発することが考えられます。

気象災害に対する準備を十分に行い、災害に負けない安定した果樹経営を目指しましょう。

降雪対策

降雪防止のためには多目的防災網の設置以外ありません。

多目的防災網については、種々の試験結果から、ナシの開花前からの被覆や遮光の影響は問題ないとの報告があります。四月上旬ころから展帳するように心掛けたいものです。

晩霜対策

霜害対策には、数種の方法があります。

燃焼資材による対策は、費用的にも比較的安価で取り組みます。

(表一参照)

点火時刻は、その夜の冷え方、果樹の危険温度により異なります。危険温度以下に冷えないように点火することが重要です。(図一参照)

恒久的な対策としては、多目的防災網、防霜ファン、スプリンクラーの設置があります。

多目的防災網は、展帳することで〇・五〜一℃の昇温効果があり、最低気温がマイナス二℃程度の霜害であれば被害を軽減できます。

防霜ファンは、果樹園上部の温度の高い層の空気を扇風機で吹きおろし果樹園内の温度低下を防ぐ方法です。マイナス三℃程度までの霜害に対応できます。

径が百センチメートル程度の大きさで十a当たり一台位の設置が基本ですが、地形などにより小型ファンを組み合わせることもあります。スプリンクラーによる対策は、植物体に散水し、これが水結する凝固熱によって植物が冷却するのを防ぐ方法です。外気温がマイナス七〜八℃でも植物体を〇℃近辺の温度に保つことが可能です。水が途中で切れることが無いような水源の確保が必要となります。

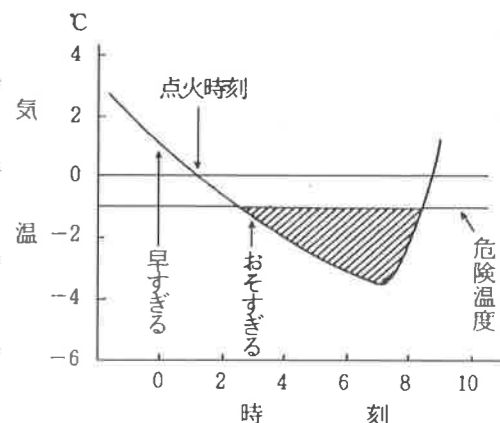


図1 正しい点火時刻

町から村から

石岡市

ふっくらコシヒカリ実践中

石岡市では、良質米づくりの一環として、昨年よりふっくらコシヒカリの実践に取り組んでいます。今年の実践農家は昨年並の十二名で併せて四ha作付けしています。四月十三日に土壌改良、施肥設計をテーマとした栽培講習会を、六月四日には中干しをテーマとした現地研究会を開催しました。今年も事前にふっくらコシヒカリ栽培マニュアルを各農家に配布してあり、これに基づいた技術の徹底が図られ、昨年以上に良い結果が望めそうです。



千代田町

千代田町花き生産組合結成

昨年六月に町内で鉢物、切り花、花壇用苗物などを栽培している十三名が集まり「千代田町花き生産組合」が結成されました。初代会長には農業経営士の矢口光雄氏が選任され、花き類の技術向上、経営発展、消費拡大等を目的に研究会、先進地研修などを行っています。千代田町は、ナシ、クリ、カキなど果樹栽培が盛んなところであるが、今後、花きの振興も大いに期待されます。

農業改良資金のご利用を!

農業を営む上で、自然災害は避けて通れないものです。降雪被害や晩霜被害を受けないように、できうる限りの対策を講じることが大切です。そのために、農業改良資金でも樹園地に対し、以下のものを設置するための資金が用意されています。

- 資金名 地域農業技術導入資金
- 防霜ファン導入技術資金
- 標準事業費
- 樹園地一〇aにつき、七十八万円
- 対象資材
- 防霜用ファン、ファン自動制御装置、支柱、付属器材、工事費
- 多目的防災網等導入技術資金
- 標準事業費

がんばってます



フラワーサクセスクラブ

平成元年に設立し、若手花き生産者の仲間づくり、研究交流等を目的としたグループです。現在四市町村(石岡市、千代田町、八郷町、茨城町)十九名が、チューリップ、キク、ガーベラ、バラ等の切り花および、シクラメン、洋ラン等鉢物、花壇苗、グラントカバリーなどを生産しています。

場調査等を実施しています。また、一昨年より、フラワーアレンジメントの講習会や、直売を通しての、地元一般消費者との活動も実施しています。一般参加者からの評判も上々で、自分達の生産物や農業への取り組み姿勢をPRする良い機会となっております。

樹園地一〇aにつき、百二十六万円
対象資材
支柱及びワイヤー、防災網、設置費、防除機
スプリンクラーについては樹園地を対象とした資金がありません。
前記にあげた設備を設置し、自然災害を未然に防ぎ、安定した果樹生産による足腰の強い農業経営を行い、そして市場からも信頼される経営が、産地の維持発展には必要です。
資金利用に際しての詳細については、最寄りの農協、または土浦地域農業改良普及センターまでお問い合わせ下さい。

気象予測システム・ネット開始

このシステムは、農作業計画の支援を目的に、県内八地域の三時間毎の気象予測を行い、インターネットで、情報提供を行うシステムです。降雪降雹の予測もあり、災害対策にも有効です。

インターネットWebと携帯電話メールサービス機能を持ち、個人での利用に限り、どなたでも利用できます。システム利用は無料です。申し込み・問い合わせ先
農業総合センター技術情報課
茨城県西茨城郡岩間町
安居三二六五一
TEL〇二九九-四五八三二一
FAX〇二九九-四五八三五〇



霞ヶ浦町

山口氏稲作共進会最優秀賞受賞



霞ヶ浦町牛渡の山口正男さんが茨城県穀物改良協会主催の第四十四回茨城県稲作共進会にて最優秀賞並びに農林水産大臣賞を受賞しました。山口氏は作業受託を含む水稲とレンコン及びジャガイモの複合経営を行っており、特に水稲には、土づくりとしてようりん、ケイカルを毎年施用しているほか、基肥を全層施肥により技術向上を図っています。そのほか機械の稼働率を上げるため、作業受託に積極的に取り組んでおり、地域の稲作リーダーとして活躍中です。

普及だより

平成14年3月20日 NO14
 土浦地域農業改良普及センター
 土浦農業改良普及事業推進協議会
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F
 土浦市真鍋5-17-26
 電話 0298(22)8511
 内線 250~261
 FAX 0298(24)0918

夢にむかってはばたけ -土浦地域青少年プロジェクト発表会-



”土浦地域農村青少年プロジェクト発表会”が、1月25日に土浦合同庁舎において、土浦地域農業担い手確保育成促進協議会”との共催で開かれた。

管内の4日クラブ・農業後継者クラブ等30余名が集まり、4つの発表課題で最優秀賞と県プロジェクト発表会代表選手の座をめざして競い合った。

発表会は、参加した青少年からは質問が飛び交い、就農アドバイザー代表(農業経営士)から”農の厳しさ”と後輩への応援”ということとで助言があり、盛り上がった中で終了した。

農業青年達は、発表者を中心に毎晩遅くまで、まとめや発表の練習に没頭して夢中になり、時間を忘れていたようだった。

今年も久々の”地区プロ”復活で、なかなか完成した課題が見つからず4課題と少なかつたが、農業青年達も準備や発表手伝いで集まる回数を重ねるうちにその面白さが身に付いてきたようで、来年の発表会こそはと胸中を期する者がたくさん出てきている。

またやろうとたくさんの声。次年度の成果に期待したい。

平成十三年度 認定者紹介

農業経営士



大塚 雄一(45才)
土浦市手野町

連根のトンネル半促成栽培で早生・中生・晩生種を作付し、常に有機物を施用して土壌改良を行い、長期出荷栽培で、系統の良い優良種子バスの確保に努めている。土浦青年農業会議所の前理事長として、生産技術・経営能力・組織指導力・人格に優れ、地域農業のリーダーとして活躍している。

青年農業士



坂本 和彦(34才)
霞ヶ浦町加茂

レンコン専業農家が多い中にある、レンコン+梨の経営を行っている。霞ヶ浦4日クラブ、霞ヶ浦梨部会青年部に属し、リーダーシップを発揮している。

青年農業士



坂川 伸一(33才)
八郷町柴間

葉たばこ+水稲の経営で、水稲は、種子生産を取り入れ、経営の安定を図っている。八郷町採種経営研究会に属し、作業オペレーターを中心となって活動している。

青年農業士



川井 孝文(32才)
八郷町柿岡

チューリップ切花と、花苗類を中心とした経営で、消費のニーズに対応した品目の導入や契約栽培も取り入れている。花卉生産後継者グループに属し、積極的に活動している。

青年農業士



山内 庄一路(34才)
千代田町上佐谷

梨・柿・栗を中心とした観光果樹園を経営しており、減農薬栽培を行い、環境にやさしい安全・安心の梨づくりに取り組んでいる。

エコファーマーとは

近年、化学肥料・化学農薬の多用による環境汚染や農地の生産力低下が問題になっていきます。

「エコファーマー」とは環境に配慮し、農地の生産力を維持、増進する農業の実践を目指して、農薬や化学肥料を低減し、土づくりを力を入れる「持続性の高い農業生産方式」を導入し、知事から認定を受けた農業者のことです。

平成12年度に制定され、現在、県内で800名以上の農業者が認定されています。

エコファーマーになるためには

- ① 持続性の高い農業生産方式の導入計画を作成します。計画作成にあたっては、普及センターで援助します。
- ② 作成した導入計画は、普及センターを通じて地方総合事務所に提出します。
- ③ 地方総合事務所で導入計画の審査を行い、認められるとエコファーマーとして認定されます。

●土浦管内の動き
 現在154名が認定されています。

【管内のエコファーマー認定状況】

作物名	認定件数	主な導入技術
水稲	3	機械除草
ナシ	133	性フェロモン剤の利用
カキ	1	機械除草
ブドウ	1	機械除草
コマツナ	17	防虫ネット
ホウレンソウ	3	防虫ネット
キャベツ	1	性フェロモン剤の利用

す。12年度は個人の申請による認定が中心でしたが、13年度は農協の部会など、組織全体で導入する認定者が増えてきています。

玉里村の高崎芳行さんは、平成12年に県南地方で最初にエコファーマー認定を受けました。水稲、カキ、ブドウで持続性の高い農業生産方式を導入し、有機物投入、減化学肥料、減農薬栽培を実践しています。

青少年プロジェクト発表会

土浦地域農村青少年プロジェクト発表会“は、プロジェクトの部”と“意見発表の部”の二部門に分けてそれぞれ二課題を発表し、県プロジェクト発表会“の座を競った。

その概要を紹介すると

”プロジェクトの部”

①「浮き草がレンコンの生育・収量に及ぼす影響」

来栖茂（霞ヶ浦4日クラブ）
浮き草の発生が水温の低下等で初期のレンコンの生育を抑え、収量低下に影響するとされているので、水温やレンコンの生育状況等を観察して、収量に差が出るかどうかを調査・検討したもの。

②「小ギク露地電照栽培の取り組み」
幕内秀文（フラワーサクセス）

露地栽培による八月咲小ギクは、気象条件によって開花が早かったり遅かったりで盆前の需要期に品が揃わない。そこで、電照栽培に取り組み生育開花を調節することでほとんど盆前の需要期に出荷でき、品質も良く、有利販売ができ高収益（無電照比較三一八%）に結びついた。

”意見発表の部”

①「自分にあつた農業経営を目指して」
中村敏明（霞ヶ浦4日クラブ）

Uターンして現在八年目。同世代の後継者との情報交換や消費者との交流を通して“農業のすばらしさ”を満喫している。
農業学園で知り合った花栽培の先輩に相談したりして花きと水稲の複合経営をしているが、将来はフラワーアレンジメントの技術も活かして露地と施設の花きを組み合わせる周年栽培を目指している。

②「消費者に信頼される梨づくり」
水野谷弘文（霞ヶ浦梨部会）
青年部・霞ヶ浦4日クラブ）
高校卒業後、2年間試験場での研修を経て就農。ナシとレンコンの複合経営を営んでいる。
「消費者に信頼される梨づくり」を目指して、二年前から性フェロモンを利用して害虫防除に取り組んでいる。減農薬に繋げるためには利用面積の増加が必要なので、今後は梨部会の仲間と共に取り組み、産地全体のイメージアップと活性化を図りたい。



農業学園の活動

普及センターでは、若い農業後継者を集めて、農業分野での仲間づくり、農業基礎知識の習得を目的に、農業学園を開催しています。
内容は、先進農家視察研修や土壌診断講座などを学園生の要望も取り入れながら、定期的に行っています。

現在、学園生は20名、経営品目は様々ですが、現状、悩みを相談したり、お互いの技術意欲を高め合いながら、それぞれの夢に向かって元氣いっぱいがんばっています。



先進技術・事例研修



土壌診断講

●平成13年度農業学園の活動

- ・農業法人「みずほ」研修
- ・学園生ほ場見学
- ・先進技術・事例研修
- ・県西VFステーション
- ・（有）ハルデザイン篠原など
- ・土づくり講座
- ・病害虫防除・天敵技術講座
- ・茨城県農村青少年プロジェクト実績発表会参加

●農業学園に入りませんか？

新規就農した方、又最近就農した若い農業後継者を知っている方は、普及センターにご連絡下さい。お待ちしております。

家族経営協定は 家族のシナリオづくり

農業に従事する家族の間で、経営の方針や仕事の分担、報酬、休日などを取り決める「家族経営協定」が増えてきています。

我が家の農業をよりよくしたいのは、経営主だけではありません。従事している家族全員です。その家族全員が役割と責任をもって働き、お互いを認めあつてこそ、やりがいのあるよりよい経営が成り立つものです。

家族が意欲を持って働くためには、家族ひとりひとりが経営に参画し、意見や考え方を話し合い、将来の生活をどうするのか、そのために農業経営をどうするかを十分に話し合う事が大切です。

「家族経営協定書」はそのための第一歩です。

まずは話し合い
経営の現状をお互いに認識し、お互いの意見に耳を傾け、将来に向けた共通の目標を持ちましょう。

◎働きやすい環境条件について

休日の取り方は
労働報酬の取り方は
家族の健康管理は
役割分担・部門分担は
後継者の育成・教育は



◎生活のスタイルについて

住まい方は
生活費の取り方は
家事分担は
介護のことは
世代交代について
経営・家計委議の時期・方法は
相続や老後の生活は

などが考えられますが、協定は規則を作って縛ることではありません。農業経営や、くらし方について、家族一人一人が考え、夢や希望を出し合い、合意できたことを文書にすることで、形は決まっても、展継続するための土台です。これを基に家族で話し合い、見直すところは見直し、よりよい家族経営を目指していきましょう。
「暗黙」の了解から「明瞭」な了解に。

家族と共にレンコンをPR

土浦れんこん研究会は、昨年11月、価格低迷・消費減退を打開すべく、総合センター公開デーにおいて消費宣伝を行った。

前日には会員と子供を連れ、奥さんが夜遅くまで打合せと試食料理作りを行い準備に当たった。当日は、あいにくの雨模様であったが、子供達も参加しての消費宣伝は、周囲が驚くほど積極的で、かけ声も大きく、他の直売店を圧倒し大盛況であった。反省会は、妻子を交えた楽しい晩餐会となった。今回は、消費者との交流以上に農業の良さを家族と一緒に味わったことが、一番の収穫となった様で

「がんばってます」



土浦れんこん研究会

ある。来年もまた参加したいとの声も多く、次年度の活動計画にも盛り込まれ、さらに盛り上がり期待できそうである。



●霞ヶ浦町酪農同志会

昨年発生した牛海綿状脳症(BSE)は、畜産業界だけでなくあらゆる業界に波及し、消費者に不安を覚えさせ、国産牛肉の消費が低迷する最悪の状況になっています。酪農家、肥育農家はもとより、あらゆる産業が危機に直面しています。

このような中、同志会会員相互が毎月定例会、飼料畑の土壌分析、サイレージ共助会、優良事例視察等を行い経営安定にさらなる努力をし、現状を乗り越えようとがんばっています。

普及だより

平成14年9月27日 NO15
 土浦地域農業改良普及センター
 土浦農業改良普及事業推進協議会
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F
 土浦市真鍋5-17-26
 電話 0298(22)8511
 内線 250~261
 FAX 0298(24)0918

砂質地における収量アップと 霞ヶ浦にやさしいレンコンづくりをめざして



レンコン栽培現地研修会が去る8月29日、霞ヶ浦町戸崎の現地圃場で生産者など約80名が出席して行われました。

これまで普及センターでは、管内各地域のレンコン研究会とともに、『土浦地域の土壌にあったレンコン品種の選定と施肥技術の確立』を課題に実証圃を設け取り組んできました。その結果、金澄20号・あじよしなどの品種と、減肥栽培技術を確立し、現在普及を図っています。

管内のレンコンは、土壌条件等に恵まれ、県内では最も収量が高いが、霞ヶ浦町の湖岸沿いの地域では砂質土壌のレンコン田が多く収量や品質が劣る状況にあります。

これらの問題を解決するために、JA霞ヶ浦蓮根経営研究会とともに今年度から3カ年の計画で、有機物資材や土壌改良資材を継続的に施用する実証圃を設け、収量品質の向上を目指す取り組みを始めました。

今回の現地研究会では、霞ヶ浦町や土浦市のレンコン田の土壌サンプル(深さ約60cm)や掘り取ったレンコンの生産状況について熱心な検討が行われました。

また、普及センターでは緩効性肥料の使用と減肥栽培を更に進めるとともに、隔年施肥栽培実証圃等を設け、きれいな霞ヶ浦を呼び戻すための活動も展開しています。

これらの技術実証を通し日本一のれんこん産地の更なる維持発展を目指したいと考えています。

霞ヶ浦をきれいにしよう

平成13年度コマツナでエコファーマーの認定を受け、農薬・肥料の低減に努め、持続性の高い農業に取り組んでいます。

農業経営士



矢口 正敏氏(51才)
玉里村高崎

水稲部門は、作業受託により規模拡大を図るとともに、プール育苗など省力技術を積極的に導入しています。また、「たばこ」の肥料はすべて有機質肥料を用いて良品質生産を心がけています。

出島葉タバコ生産組合長・JA土浦稲作部会理事として、地域農業振興に取り組んでいます。

農業経営士



宮下 茂司氏(53才)
土浦市菅谷町

平成十四年度 認定者紹介

農政審議会委員・JAひたち野田余支店野菜部会の発足からリーダーシップを発揮し、地域の農業振興に努めています。

今までの露地野菜から、施設作物(野菜苗・花壇苗物)の新しい部門に取り組んでいます。ひたち野農協女性部・あいのう会に所属して活躍しています。

女性農業士



田口 洋子氏
石岡市井関

水稲・採種(水稲・麦)を基幹作物とし、近年は、転作麦・大豆の受託作業を請け負う、大規模土地利用型農業を営んでいます。八郷町農業委員・八郷町農事組合実行組合長として、地域農業の展望を開くリーダーとして指導力を発揮しています。

農業経営士



比企 正男氏(49才)
八郷町大字加生野

青年農業士



五木田 宏氏(31才)
土浦市荒川沖

花木・植木の鉢物を中心とした花き専作経営を行っており、常に新しい品目を探るなど発展的な経営を行っています。平成12年に認定農業士となり、現在花き後継者グループ「緑進会」に所属し積極的に活動しています。

青年農業士



嶋村 弘道氏(31才)
土浦市荒川沖

球根類や各種草花の鉢物を中心とした花き専作経営を行っており、特に用土を吟味し、良品生産に力を注いでいます。

平成12年に認定農業士となり、現在、花き後継者グループ「緑進会」に所属し積極的に活動しています。

**平成十五年茨城県立農業大
学校学生募集のお知らせ**

◆募集人員 農学科・野菜園芸学科
各二〇名/畜産学科・経営情報学
科・果樹園芸学科・花き園芸学科
各一〇名

◆願書受付期間
推薦募集 平成十四年 一〇月二五日(金)
一般募集 平成一五年 一月二四日(金)

◆願書提出先及びお問合せ先
〒311-3116
茨城県立農業大 入試事務局
029-292-0010

身近な農業情報誌「農業茨城」を購読しませんか。
(購読料 年間4200円)

普及センター新職員紹介

- ※①所属②担当③前勤務地
- 星野雅孝(①農畜産課・課長②作物③結城農改)
- 栗原豊江(①経営生活課・専門員②生活③江戸崎農改)
- 白井謙一(①経営生活課・専門員②経営③霞ヶ浦用水事務所)
- 福田弥生(①農畜産課・主任②作物③農業研究所)
- 山田有希枝(①園芸課・技師②作物③結城農改)
- 田中館志都(①地域普及課・技師②③新採)

「大規模水田経営研究会」が発足しました。

土浦大規模水田経営研究会は、年々厳しさを増す水田農業を取り巻く環境、米価の低迷や農地の流動化等々、大規模水田経営者でないといわれない諸問題について、仲間と研究会を作って自主的に問題解決に取り組もうと、平成14年2月2日、土浦市、新治村、霞ヶ浦町の大規模水田農家14名で結成されました。

主な活動は、会員相互の交流を深めながら各自の技術向上を図ることで、定期的に現地研究会などを実施しています。第一回目は設立総会後に、猿島町の有限会社ソメノグリーンファームでの先進地研修を実施しました。

今年度は、霞ヶ浦の2名にお願いして、育苗箱全量基肥法（本田の施肥窒素全量をあらかじめ育苗箱に入れておき、田植え時に苗とともに本田に持ち込む方法。育苗中の追肥や、本田の元肥・追肥作業が不要となる。）の現地実証試験を行っています。

6月25日には、試験圃場で現地検討会を行いました。実際に栽培している方からの話を聞いたり、抜き取った稲株の地際についている肥料（これから溶け出すもの）を見ながら、活発に質問がでまし



設立総会の様子



ソメノグリーンファームでの先進地研修

た。収穫間際にも見学したいといった要望も出ました。これからも、省力化や低コスト化など、大規模水田経営と関係の深い内容について、積極的に研修会などを行っていきたくと考えています。

農薬の安全使用について

農作物に使用できる農薬は登録農薬だけです。安全使用基準を遵守して使用しましょう。無登録農薬の購入・使用はやめましょう！

消費者へ安全な農産物を供給することは、生産者の社会的な債務です。これを守らないと、生産者個人の責任にとどまらず産地全体に影響し、消費者、市場の信用を失いかねません。

農産物の安全などを確保するためには、農薬取締法に基づき国の登録を受けた農薬（登録農薬）を、包装に記載された安全使用基準を守って正しく使用して下さい。

■ダイホルタン

昭和60年代当初まで果樹・野菜の殺菌剤として流通。発ガン性の疑いが強まり平成元年に登録失効。食品衛生法の残留農薬基準値は「不検出」と厳しく改められた。

■プリクトラン

昭和60年代当初まで果樹等の殺ダニ剤として流通。昭和62年に登録失効。食品衛生法の残留農薬基準値は「不検出」と厳しく改められた。

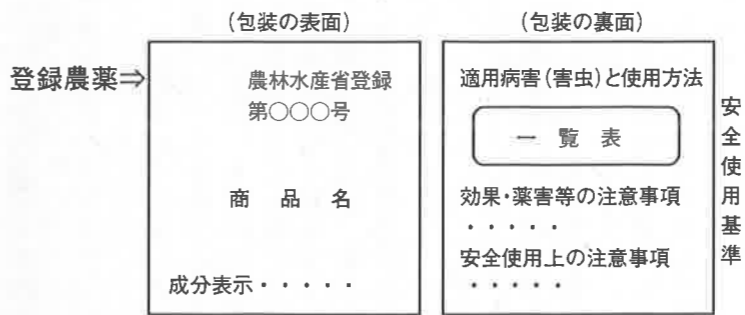
■ナフサク

挿木の発根促進、果樹の落下防

止などに効果のある植物調整剤。国内では農薬登録がなく、上記2剤同様、国内では使用できない。

■登録農薬

農薬取締法における登録制度により、品質及安全性が確認され、国の登録を受けた農薬。



町から村から

土浦市

八郷町

千代田町

◎土浦市 家族経営協定の締結

土浦市では、魅力ある農業経営や農家生活の確立をめざして、家族経営協定の推進に取り組んでいます。家族経営協定は経営者と妻、後継者、その他の家族員が農業経営のやり方や収入の配分、家事分担等諸事項について文書で取り決めることです。平成12年度は2戸の家族経営協定締結がありましたが、平成13年度は戸別巡回で啓発した事も効を奏して15戸の締結者がありました。本年3月15日には、平成12年・13年の締結者が一堂に会して市長より実践農家の認定証書が渡されました。今年も活き活きと農業や生活が出来るよう締結を推進していきます。



◎八郷町 神生氏日本ばら切花協会会長就任

八郷町吉生の神生賢一氏（県農業経営士）が、日本ばら切花協会の第十五代会長に就任しました。同協会は全国のバラ切り花生産者の組織で、1957年に設立され、現在会員数は1252名で、研究大会の開催や品評会・展示会等の消費宣伝活動を行っています。神生氏は昭和49年、県内でも早い時期にバラ栽培を導入しました。県ばら切花研究会（会員36名）でも、長年役員を務めており、県内バラ切花生産者のリーダー的存在です。

近年バラ切り花生産は、消費の低迷や安価な輸入バラの増加等の影響で切り花単価の安値傾向が続いています。こうした時代を乗り越えるため、現在、優良品種の選定や剪定方法の改善等による生産性の向上、共販グループによる市場への値決め販売などに、積極的に取り組んでいます。今後は、日本のバラ生産者の代表として国際競争に負けない、より良いバラ生産を目指してご活躍が期待されます。



◎千代田町 セミトラップでセミを一網打尽

千代田町の梨幸会では、セミトラップ作成研修会を行い、梨畑のセミ取りを実施しています。セミは、一生の大半を土中で過ごしその間、梨の根から樹液を吸いながら成長しています。近年、多目的防災網が普及してきたことから、セミが園外に出られず園内で増殖し年々密度が高まっています。殺虫剤で駆除することもできますが、死ぬまでに産卵する可能性があることから、羽化させない方法としてセミトラップを利用しようというものです。この方法は八郷町の生産者が始めたもので、ペットボトルの横に四角の穴をあけたものを、梨の樹に肥料袋を巻いてセミが一所に登り詰めるようにした所に取り付ける方法です。（写真参照）一晩に30匹以上も取れる場合もあり、効果が上がっています。



（財）茨城県農林振興公社 からのお知らせ

農地の売買・貸借は 『農地保有合理化法人』 にお任せ下さい。

★農業振興地域内の農用地の売買・貸借をお考えの方は、まず「一報ください」。

農地保有合理化事業が適用されますと数々の特典を受けることができます。

売りたい方は、譲渡所得が800万円まで控除されます。

買いたい方が、認定農業者の場合、スーパール資金が借りられます。（ただし、担保が必要となります。）

貸したい方は小作料の前払いが受けられます。

借りた方の方の小作料は、標準小作料をもとに納得のいく額を毎年払います。

※他にも多数特典があります。

★お問い合わせ先

売買事業については、市町村農業委員会事務局・農林振興公社まで。貸借事業については、市町村農業委員会事務局・農林振興公社・市町村農業公社・農地保有合理化法人の農業協同組合まで。

普及だより

平成15年3月10日 NO16
 土浦地域農業改良普及センター
 土浦農業改良普及事業推進協議会
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F
 土浦市真鍋5-17-26
 電話 0298 (22) 8511
 内線 250~261
 FAX 0298 (24) 0918

これから期待される粗飼料の安全確保

—— 稲発酵粗飼料の現地研究会を開催 ——



平成14年10月18日八郷町小高地区において管内酪農家及び関係者約50名が集まり、稲発酵粗飼料(飼料用イネ)収穫現地検討会を開催しました。現在までの取り組み状況・栽培概要について、普及センターから説明した後、収穫機械(牧草収穫機)による実演が行われました。

稲発酵粗飼料(飼料用イネ)の取り組みは、13年度に八郷町太田の高野氏(酪農家)の展示圃場(0.2ha)で始まりました。きっかけは、高野氏が12年度に埼玉県妻沼町の現地検討会に参加して、自給率の向上と安全な国産粗飼料の確保が出来ることから普及センターに専用品種や栽培方法など相談があったことからです。14年度は恋瀬飼料作物生産組合(代表市村寿男氏)を設立し面積も0.2haから2.3haへ拡大しました。

稲発酵粗飼料のメリットは①湿田での栽培が可能である②稲作農家と畜産農家が連携した地域複合生産ができる③転作助成金制度を最大限に生かせるなどがあげられます。

今回の実演会では、実際に恋瀬飼料作物生産組合のメンバーが機械を操作し収穫・調整を行ったため、わかりやすく非常に有意義な一日でした。

普及センターでは来年度も安心・安全な自給飼料の確保のため支援を行ってまいります。

霞ヶ浦をきれいにしよう

「園芸きり産地めざして」

J A やさと有機栽培部会は、有機野菜を求める消費者ニーズに応え、平成9年に発足しました。

①安全な野菜(太陽の光をいっぱい浴び大地が蓄えた養分でゆっくりに育った健康な旬の野菜)

②こだわり(無農薬・無化学肥料でJ A S 認証)

③土づくり(完熟堆肥・ぼかし肥等を使い、微生物の力を活用)を基本に、国のガイドラインの有機栽培にそった「安全」で「美味しい」農産物を消費者に供給するために活動しています。

数名でスタートした部会は、現在、農業以外からの新規就農者9名も加わって19名になり、品目・数量ともに充実してきました。

J A S 認証の有機野菜は、毎年生産者・生産量ともに増加していますが、それ以上に販売先の需要が多く、現在、それに応えようと皆で頑張っています。

昨年から地域を越えてのJ A 組合員の加入が可能となりました。J A やさと有機栽培部会では、有機農産物の生産・販売を希望する生産者がいたら、仲間として受け入れたいとのことです。詳しくはJ A やさと営農流通センター
 ☎0299 44 1661まで

「コマツナ防虫ネット」

J A ひとち野田余支店野菜部会(矢口明良部会長)ではコマツナ栽培に取り組んでおり、平成14年度に全員がエコファーマーに認定された。農薬低減技術として、防虫ネットを利用し殺虫剤の散布回数を減らしているが、これまで利用してきた1ミリ目合のネットでは、ハムシなどがネットをとってしまい、食害が目立っていた。そこで、さらに目合の細かい0.7ミリと0.8ミリのネットを用い、従来のネットと比較試験を行ったところ、0.7ミリと0.8ミリネットでは殺虫剤を散布しなかったにもかかわらず、食害がかなり減少し、収穫率が高まった。今後、このネットを利用し、さらに減農薬に取り組み、持続性の高いコマツナ栽培を目指していく。



全国まゆクラフトコンテストで「グランプリ受賞」

千代田町養蚕婦人研究会(田崎秀子会長)では、18年位前から、養蚕研究活動の一環としてまゆクラフト作りに取り組んできた。最初はまゆの丸い形をそのまま利用して動物や花などを作っていたが、物足りなくなり、より自然に、より本物に目を目標にそれぞれが創意工夫を凝らし、ブーケ、盆栽、切花、ちぎり絵、人形等作品作りを行ってきた。

毎年、全国大会の予選を兼ねて茨城県フラワーパークで開催される「茨城県繭クラフト作品展」(コナテスト)では、常に上位入賞し、横浜のシルク博物館で行われる全国大会に出品していたが、今年度は会員の宮本昭子さんがグランプリ、また、会長の田崎さんが特別賞をめぐりダブル受賞しました。



グランプリ「森の明かり」(フクロウが電気スタンドになります)

直売所における農産加工品の販売

近年、各地に直売所が設置され、地域の活性化が図られている。直売所では農産物の販売と、みそ、漬物、ジャム、餅など加工品として付加価値をつけて販売しているところも多い。特に、郷土の伝統を生かした農産加工品は人気が高い。販売を目的とする農産加工品には専用の施設を整備することや、保健所からの食品衛生管理者の資格を取得する必要がある。また、最近食品の品質や安全性に対する関心が高まっており、商品の品質表示が義務付けられている。

これからの直売所運営では、消費者ニーズに合った商品作りや、安全、安心の信頼性の高いものなど、いくつかのハードルをクリアしなければならぬ。

このようなことから普及センターでは直売活動を行っている女性農業者を対象に、農産加工品の商品化や経営管理などの内容で、今年度から2カ年間の計画で直売活動講座を行っている。関心のある方はぜひ参加してください。

—— お詫びと訂正 ——
 前号(No.15)の認定者紹介で農業経営士矢口雅敏氏の名前が誤って正敏になっておりました。お詫びして訂正いたします。

◎**燃焼法**
簡易な方法として燃焼資材(表)の利用があります。0℃程度で点火しますが、霜害の最も発生しやすい日の出直前まで火の勢いを落とさないことが重要です。

◎**防霜ファン**
燃焼法に比べ効果が高く、設定温度で自動的に稼働するので、労力の面からも有効です。

◎**スプリンクラー**

晩霜対策

一般的に午後6時に7〜8℃、午後9時に4〜5℃になると降霜の危険があるとされます。霜の降りる夜は風がほとんどないので、重く冷たい空気は地表面に近いところにたまり、低いところほど霜害が発生しやすくなります。生育ステージで見ると、開花直前から落花10日後までが最も弱く、特に注意が必要です。

晩霜発生条件

近年、暖冬傾向により果樹類の開花が早まってきており晩霜害を受ける危険性が增大しています。晩霜害対策には万全を期しましょう。

果樹の晩霜害対策



散水することで、植物体を氷に包み植物体温を0℃前後に保つことができるとされています。日の出まで散水を続けることのできる豊富な水量が必要とされます。

◎多目的防災網

0.5〜1℃の温度上昇効果があります。雹害対策と併せて四月上旬に展開しましょう。

◎耕種的防除

下草は地温上昇を妨げるので短く刈り込み、敷きわらなどの被覆は霜害の危険が去ってから行いましょう。

表. 主な燃焼資材の特徴

資材名	燃焼時間	点火数(10a当たり)	経費(概算)
デュラフレーム(シーダーフレーム)	約3時間	30~42	650円×40個=26,000円
霜よけくん	約3時間	約50	650円×50個=32,500円
霜しらず	約3時間	30~42	600円×40個=24,000円

その他、レンタンなどがあります。

貸付対象者

主な貸付対象者は、次のいずれかに該当する農業者又は農業者の組織する団体です。

認定農業者	農業経営基盤強化促進法に規定する農業経営改善計画の認定を受けた者
認定就農者	経営開始後5年以内かつ就農計画認定後10年以内の者に限る。
次の要件のすべてを満たす農業者(経営主又は準する者)	<ul style="list-style-type: none"> 農業所得が総所得の過半、又は農業収入が200万円以上(法人にあっては1,000万円以上)。 主として農業経営に従事すると認められる若年者の農業者であること。 60歳以上の農業者については、後継者が主として農業に従事していること。 簿記記載を行っていること(確定と見込まれる場合を含む)。
上記の経営主以外の農業者(家族農業経営に限る)	<ul style="list-style-type: none"> 家族経営協定を締結していること。 経営の一部部門について主宰権があり、経営の危険負担及び収益の処分権があること。
認定農業者等の担い手が全構成員の過半を占める法人格を有しない任意団体	団体の規約が一定の条件をみたしていること。

認定農業者等担い手になります。

一 貸付対象者

は次のとおりです。

平成14年7月、農業制度資金が改正になりました。主な改正内容は次のとおりです。

農業制度資金には、農業改良資金、農業近代化資金、農林漁業金融、農産物加工資金、農林漁業金融公庫資金があります。国が利子に対して助成を行うなど借入条件が有利になっていますが、借入要件が定められています。

農業制度資金が変わりました

二 借入の手続き

借入希望者は「借入申込希望書」と「経営改善資金計画書」を農協等金融機関に提出します。また、過去3年間の決算書等も添付します。今までの経営状況から見て、5年間に設備投資等を行った場合にどのような経営改善されるか、資金繰りが可能であるかなど、金融機関等で審査を行うので、無理のない計画を立てる必要があります。

審査により計画が適当であると認められると、「借入申込書」を金融機関に提出し、貸付を受けます。貸付が決定してから、事業を開始しなければなりませんので、余裕を持って申請手続きを行う必要があります。

三 農業改良資金

農業改良資金は高リスク農業へのチャレンジを対象とした資金になりました。

高リスクとは

- ① 農業の新部門に進出
 - 例 野菜農家が花卉栽培を導入
 - 例 新たに施設水耕栽培を導入
- ② 加工・流通部門に進出
 - 例 新たに農産物加工を開始
 - 例 地域内消費者向けの直売を開始

なお、詳しいことは、借入希望時に、金融機関等にご相談ください。

乳白米をなくせ!!!

1 平成14年産米の稲作を振り返って

ここ数年、5月の連休前に田植えを終了させたいという兼業農家が増加し、田植えが早期化しています。(4月に田植えがほぼ50%終了)。このことは、初期の低温障害(活着不良)の危険性を高め、また、旺盛な分げつによる籾数の増加、7〜8月の高温障害(乳白米発生)の危険性を高めています。平成14年産米は、茨城県南・県西地域のコシヒカリで乳白米が多発し問題となりました。

2 乳白米発生の要因

乳白米は玄米がもち米のように白くにごる現象で、籾へのデンプンの蓄積がスムーズに進まなかった場合発生します。未熟籾(弱勢籾)に発生が多く、田植えが早いことにより分げつが増し、籾数過剰に

食糧事務所検査結果 (10/20まで)

地域別	1等比率(%)
県北・県央	73
日立	62
鹿行	75
県南	46
県西	45

品種別	1等比率(%)
コシヒカリ	43
キヌヒカリ	53
ゆめひたち	61
ひとめぼれ	70
チヨニシキ	52
あきたこまち	91

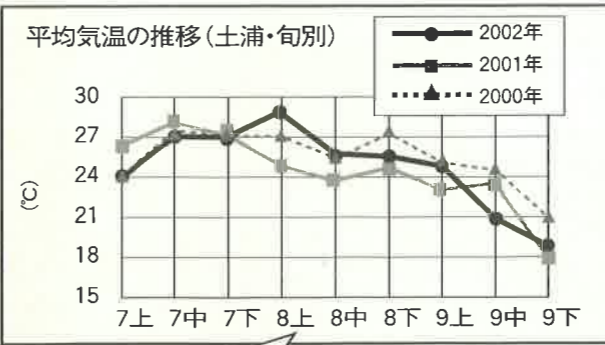
※目標 坪当たり1200本で
早めの中干し
(田植え後30日で茎数確認!)
中干し開始

- ① 出穂後20日間の高夜温時は夜間かけ流し、昼間止め水を実施する
- ② 出穂後30日までは落水せず、成熟期まで緑色を残した生葉を確保できるようにする
- ③ 田植え期を遅くする(無理な早植えはしない)
- ④ 根張りをよくするため、深耕を心がける
- ⑤ 未熟もみに乳白米の発生が多い

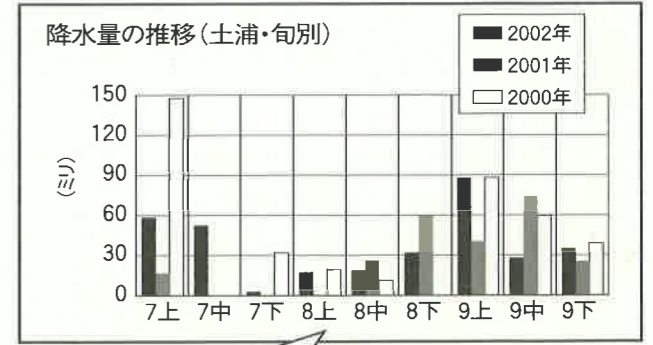
3 対策

乳白米をなくすためには、健全なイネづくりを心がけることが重要です。以下の点をよく守ってください。

- ① 根張りをよくするため、深耕を心がける
- ② 田植え期を遅くする(無理な早植えはしない)
- ③ 未熟もみに乳白米の発生が多い



2002年は出穂直後の8月上旬の気温が異常に高い!



7月中旬〜8月中旬まで降水量が少なく、用水不足に注意する必要があります!

リン酸肥料の効果的な施用法について教えてください。

リン酸は作物の根の発育、茎の枝分かれや茎数の増加を盛んにし、開花結実を促進する効果があります。リン酸質肥料は、肥効性の点で、「溶解性」が重要となり、水溶性・可溶性・く溶性(溶けにくい)の3種類に分類されます。水溶性のものも肥効がもつとも早く可溶性・く溶性の順に肥効が緩効性となります。生育期間の短い作物では水溶性が、長期間生育する作物には可溶性・く溶性が適しています。

「過リン酸石灰(過石)」は水溶性が主成分で、イネの追肥、畑作物では堆肥と混ぜて施用するなどして肥効が落ちないように工夫して、施用します。

「重焼リン」はく溶性リン酸と水溶性リン酸を半分づつ含んでいるので、土壌に施すとまず水溶性リン酸が作物に吸収され初期生育がよくなり、生育後半にはく溶性リン酸がゆっくり吸収されます。したがって短期・長期の作物とも効果があります。

普及だより

平成16年8月25日 NO17
土浦地域農業改良普及センター

土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
電話 029(822)8511
内線 250~261
FAX 029(824)0918

市場での有利販売を目指し 新技術に挑戦!!

— 盆出荷コギクの露地電照栽培の取り組み —



▲8月咲き栽培（電照栽培）検見会

出荷直前のコギク▶

石岡の小菊は昭和四〇年頃生産が始まり、平成六年に花き銘柄産地の指定を受けました。現在生産者数約四〇名、栽培面積三五ヘクタール、年間出荷量約八五〇万本で、県下一の産地となっています。新産地が増え、産地間競争が厳しくなる中、市場ではこれまで以上に需要期の安定出荷、品質の良さ、日持ちの良さ等が求められており、JAひたち野花き部会では有利販売のための新技術に取り組んでいます。八月盆は小菊の最需期であり、市場では予約相対販売が行われます。しかし通常の露地栽培では、気象条件により開花が前後してしまいます。このため、露地電照栽培を導入し、開花時期調節の技術確立を目指しています。更に、市場占有期間を拡大し有利販売を展開するため、パイプハウスを導入し、五月上旬からの出荷を目標とした施設栽培を実施しています。これらの普及を図りながら、適品種の選定等技術の安定化に取り組んでいます。歴史ある産地として、これまで培われた経験を生かしつつ、良品効率生産のための新技術に挑戦し、豊富な経験と新しい感覚を兼ね備えた産地として発展することを目指しています。

みんなで進めよう茨城農業改革

新しい 農業三士紹介

(農業経営士、女性農業士、青年農業士)

この度、次の方々が農業経営士等に新たに知事認定され、土浦管内の三士は、農業経営士一六八人、女性農業士二二人、青年農業士二八人となりました。農業三士は、地域のリーダーとして、地域農業の振興、農家生活の向上、担い手育成等の推進役として、各部門、地域の模範的経営を実践している経営体から普及センター、市町村、JA三者が協議して選定し農業総合センター長が知事に推薦して知事認定するものです。今後、茨城農業改革の推進や諸課題の検討、解決に対する活躍が期待されています。

平成一五年度認定



農業経営士
森戸 誉史
石岡市若宮
ナシ



青年農業士
小松 浩一
玉里村川中子
レンコン



青年農業士
貝塚 正幸
玉里村川中子
レンコン



青年農業士
萩原 隆史
新治村大志戸
ナシ



青年農業士
飯村 伸一
八郷町下林
ナシ



青年農業士
滝 毅
土浦市栗野町
施設野菜



女性農業士
長谷川智子
千代田町中志筑
ナシ



青年農業士
中田 一郎
玉里村川中子
レンコン



青年農業士
鈴木 俊之
千代田町飯田
ナシ・甘藷



青年農業士
磯原 昌幸
土浦市手野町
レンコン



青年農業士
幕内 秀文
石岡市国府
花き



農業経営士
上田 勝美
玉里村下玉里
レンコン

平成一六年度認定

入学定員等

部	学科	専攻コース	入学定員	所在地
農業部	農学科	水田・畑作	20人	茨城町長岡4070-186
	畜産学科	酪農・養豚	10人	
	経営情報学科		10人	
園芸部	果樹園芸学科		10人	岩井市岩井5205-3
	野菜園芸学科		20人	
	花き園芸学科		10人	

願書受付期間

前期	H16.12.14~H17.1.14
後期	H17.2.1~H17.2.15

問合せ先

農業改良普及センター 又は茨城県立農業大学校
TEL 029(822)8511 TEL 029(292)0010

茨城県立農業大学校では、高等学校卒業見込者等で農業に夢をもって挑戦する意欲ある若者を募集しています。多くの卒業生が茨城農業の第一線で活躍しています。

農業大学校 学生募集



近隣市町村から視察に来るなど周辺の関心も高まっています。



カモやバンと呼ばれる鳥は、レンコンの葉を食害します。玉里村ではキュウリの仕立て用ネットをレンコン田の上約2mの高さに張り、これらの被害を防ぐ取り組みがなされています。完全に防ぐことはできませんが、被害はかなり軽減しています。

玉里村 レンコンのカモ害対策進む

茨城農業改革

みんなで進めよう

みなさんの農業をとりまく環境が大きく変わってきています。これまでは、つくれば売れた。しかし今はどうでしょうか？ 全国どこでも良いものづくり運

茨城県農産加工指導センター主催の農産加工品コンクールが去る二月二四日に開催され、味噌の部において「手づくり食品研究会」(代表岡田幸枝)が出品した小町味噌が最優秀賞と特別賞の知事賞に輝きました。「手づくり食品研究会」は平成二年に発足して以来、地元産の大豆と米を使用する等常に品質の良い味噌づくりを指して努力を続けてきました。



「小町味噌」知事賞を受賞

茨城県農産加工指導センター主催の農産加工品コンクールが去る二月二四日に開催され、味噌の部において「手づくり食品研究会」(代表岡田幸枝)が出品した小町味噌が最優秀賞と特別賞の知事賞に輝きました。「手づくり食品研究会」は平成二年に発足して以来、地元産の大豆と米を使用する等常に品質の良い味噌づくりを指して努力を続けてきました。

新治村

動を展開しており、どこからでもよいものが集まってきました。それらの産地も消費者などの声をよく聞き、消費者の求める「安全・安心」「新鮮」「定時・定量・定価格・定品質」の農産物で生産に取り組んでいます。これからは、消費者に喜んでもらえるモノづくり・生産者が生き生きと農業に取り組むことので

八郷町では昨年から関係機関と生産者でこれからの八郷の梨づくりについて検討を重ね、若い生産者を中心とした研究会をつくることとなり、去る四月二六日に設立総会が開催されました(会長友部敏英氏、会員三〇名)。研究会では、新植・改植の推進、仕立て方法の研究、新パッケージの研究などに取り組み計画です。



八郷梨経営研究会発足

八郷町では昨年から関係機関と生産者でこれからの八郷の梨づくりについて検討を重ね、若い生産者を中心とした研究会をつくることとなり、去る四月二六日に設立総会が開催されました(会長友部敏英氏、会員三〇名)。研究会では、新植・改植の推進、仕立て方法の研究、新パッケージの研究などに取り組み計画です。

八郷町

きる時代です。周囲の産地は既に変わってきました。みなさんの農業も変わらなければ生き残れません。自分たちの農業をもう一度見直し、自分たちの創意工夫で農業の改革を進めましょう。普及センターでは、市町村や農協と協力して皆さんの取り組みを支援します。

いばらき農産物 ネットカタログ 登録募集中

茨城県では安全で安心な茨城県の農産物を消費者により詳しく知ってもらうために「いばらき農産物ネットカタログ」を開設し、登録者を募集しています。これは、生産履歴や産地・作物の情報などを発信して野菜や果物の素顔を紹介するインターネットカタログです。カタログには、生産履歴(農薬や肥料の使用、作業状況)、生産物情報(産地の取り組みなど)、生産者情報、出荷情報が記載されます。

消費者は、生産履歴を店先でチェックしながら購入することができます。今、近くでは、カスミ学園店・水戸見川店、ララガーデン・カスミグランドプルシェで実際の状況を見ることが出来ます。登録できる団体及び個人は、

- ①安全・安心を推進する体制のあること
- ②生産履歴の記帳とチェック体制とデータ保管管理体制の整っていること

が必要で、登録したい方・関心のある方は、農協・市町村・普及センターなどにお問い合わせください。

「農業学園」始まる

去る六月一四日に平成一六年度農業学園が開講しました。農業学園は、就農して数年目の農業後継者を対象に農業の基礎知識の習得や仲間作りを目的にした「基礎講座」と、果樹・花き・作物・畜産・野菜の各部門での専門知識や技術の習得・向上を目的とした「専門講座」で、普及センターが開講しています。開講式には一六名の農業後継者が参加(うち六名が新規受講生)し、自己紹介と講座の年間計画のオリエンテーションを行い、その



後に、農業経営士である八郷町の神生賢一氏の講話を聴きました。神生氏は昭和四九年にバラ切花経営を開始し、現在では日本バラ切花協会の会長を務めています。講話では学園生に対し「夢を描いて農業に取り組んで欲しい」とメッセージが送られました。同じく一八日には、専門講座の花き部門講座が開講しました。第一回目の今回は、県内の若手生産者の優良事例について視察研修を行いました。研修先は小川町の押手哲也氏、友部町の鶴田輝夫氏、立川栄一氏の三名でした。研修先の押手氏や鶴田氏は就農三年目ですが、栽培管理状況の良さと共に、自己経営状況をしっかり把握し、今後の方向についてはしっかりした考えを持っており、人前ですっきり話すことができることが印象的でした。研修生には良い刺激となったようでした。



研修先は小川町の押手哲也氏、友部町の鶴田輝夫氏、立川栄一氏の三名でした。研修先の押手氏や鶴田氏は就農三年目ですが、栽培管理状況の良さと共に、自己経営状況をしっかり把握し、今後の方向についてはしっかりした考えを持っており、人前ですっきり話すことができることが印象的でした。研修生には良い刺激となったようでした。

農業は正しく使いましょう

平成一四年の夏に無登録農薬が全国的に流通・使用されている実態が明らかとなり、消費者の「食」の安全に対する関心が大きく高まりました。このため同年一二月に農薬取締法が改正され、

一、農薬使用基準とは

農薬は、登録に際して毒性評価を行い、人畜などへの害がない量的な範囲を作物残留などの基準として定め、この基準を超えないよう使用方法を決めています。つまり、適正に使用されてこそ安全が確保されるわけで、農薬取締法は、遵守すべき使用基準を定め、違反した場合には罰則が課せられます。

- ### 二、農薬使用基準の内容
- ①その農薬に適用がない作物へは使用しないこと。
 - ②定められた使用量又は濃度を超えて使用しないこと。
 - ③定められた使用時期を守ること。
 - ④定められた総使用回数以内で使用すること。
- を遵守義務としました。更に、社会的要請が強い事柄について五つの努力義務が設けられました。

- ①有効期限切れ農薬を使用しないこと。
 - ②農薬を使用した日や場所、作物、農薬の種類や量を記帳すること。
 - ③航空散布や住宅地周辺での散布で、農薬が飛散しないようにすること。
 - ④水田で使用する農薬の止水期間を守る。
 - ⑤土壌くん蒸剤の被覆期間を守り揮散防止に努めることです。
- 農薬使用基準を守り、安全で安心な農産物生産に努めましょう。

普及だより

平成17年3月23日 NO18
 土浦地域農業改良普及センター
 土浦農業改良普及事業推進協議会

土浦合同庁舎第2分庁舎3F
 土浦市真鍋5-17-26
 電話(直通)029(822)8517
 FAX 029(824)0918

頑張る農業者を応援します

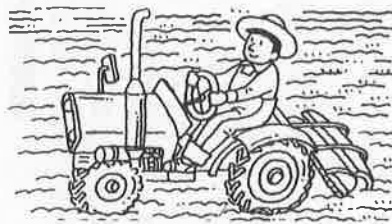
活用しよう!

認定 農業者制度

農業経営管理講演会



▲管内全市町村で10回開催した経営相談会



玉里村で行った認定農業者の経営改善状況調査報告と消費税に関する講演会の様子



土浦普及センター管内の認定農業者数は五四八名(平成一六年八月現在)で、各人が自らたてた計画に沿って経営改善を進めています。認定農業者制度は、農業者がたてた農業経営改善計画を市町村が認定し、その計画の実現に向けた取り組みを関係機関・団体が連携して支援する仕組みで、農地集積・金融・税制など経営規模拡大と経営安定対策のための様々な支援策が用意されています。

普及センターではこれまでも市町村農業経営改善支援センターと協力し、認定農業者に対して色々な経営改善支援を行ってまいりました。今年度は、認定後三年目(中間年)の認定農業者を対象(九〇名)に、経営改善取り組み状況等個別経営相談会を行い、話し合いを基に経営診断支援を行いました。

その結果、農地の集積、雇用等労力不足、簿記記帳を中心にした経営管理などの課題が明らかになりました。今後は、これらの課題を認定農業者と市町村・関係機関・団体が一緒に解決を進めることにしています。

みんなで進めよう茨城農業改革

特別栽培農産物の表示

茨城県認証マークによる表示や、農林水産省の「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に基づく表示など、適正な表示を行います。



栽培計画等の承認申請書の受付期間

- 栽培開始期間が1月から6月までの農産物及び多年生農産物.....前年の11月
- 栽培開始期間が7月から12月までの農産物.....同年の5月
- 認証された玄米を精米する場合.....8月

農林水産省ガイドラインによる表示例

農林水産省新ガイドラインによる表示	
特別栽培農産物	
農薬:栽培期間中不使用(食許使用)	
化学肥料:茨城県発行栽培比削減(窒素成分)	
栽培責任者	〇〇〇〇
住所	〇〇県〇〇町△△
連絡先	TEL:〇〇-〇〇-〇〇〇
確認責任者	△△△△
住所	〇〇県〇〇町〇〇〇
連絡先	TEL:〇〇-〇〇-△△△
化学肥料の使用状況	
使用資材名	用途 使用量
▽▽▽	元肥 窒素 4kg/10a
◇◇◇	追肥 窒素 1kg/10a

注:使用資材名は原則として商品名ではなく、主成分を示す一般的な名称を表示します。

平成一六年四月一日から県の認証制度が改正となったので、主な改正点についてお知らせします。

「茨城県特別栽培農産物認証制度」について

- 一、認証区分の取り扱い
従来の八つの区分を廃止して、「化学合成農薬の使用回数が慣行の5割以下で、かつ化学肥料の窒素成分量が慣行の5割以下である栽培方法による農産物」を「特別栽培農産物」として、一括りで認証します。
- 二、認証マークによる表示
一の「認証区分の取り扱い」に準じて、認証マークによる表示は「特別栽培農産物」の名称に統一します。
- 三、認証の手続き
生産者は、農産物生産の前に栽培計画承認申請書及び栽培計画書を市町村を通して総合事務所へ提出し承認を得てから栽培を始め、出荷前に認証申請書及び栽培管理記録簿写を総合事務所へ提出して認証を受けることとなります。

農薬の総使用回数について

農薬取締法が改正されてから二年が経過しましたが、今年の六月からは農薬の総使用回数の遵守が今まで以上に厳格になります。

これまで農薬の使用回数といえば薬剤毎に回数を数えていましたが、これからは成分毎に総使用回数を数えることが法律上明記されたためです。

したがって、成分が同じ農薬は言うまでもなく、二つ以上の成分を含む農薬ではそれぞれの成分毎に使用回数を数えないといけないが、間違いを起さねえせん。

間違いをなくするためには、①使用する予定の農薬をリスト化する、②成分が分かるように書き出す、③同じ有効成分の農薬をまとめ、総使用回数を表示しておく、④防除日誌をつけ、使用前には必ず使用回数を確認するなどの対策を講じましょう。

購入する種子や種苗の農薬使用状況にも注意しましょう。

(例2) 有効成分の総使用回数と剤としての使用回数との関係
商品名: モスビラン粒剤 (有効成分名: アセタミプリド)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤のみを使用する場合の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	アオムシ	1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	4回以内(但し定植後は3回以内)

商品名: モスビラン水溶剤 (有効成分名: アセタミプリド)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤のみを使用する場合の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	アオムシ	2000倍	14日前まで	3回以内	散布	4回以内(但し定植後は3回以内)

(解説)
 有効成分「アセタミプリド」としては4回まで(但し定植後は3回まで)使用できますが、モスビラン粒剤は1回のみ、水溶剤は3回までとなります。

モスビラン粒剤を2回以上使用したり、水溶剤を4回使用することはできません。



(例1) 共通の有効成分を含む農薬を使用する場合
商品名: ダコニール1000 (有効成分: TPN)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤のみを使用する場合の使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数
キュウリ	べと病	1000倍	前日まで	4回以内	散布	4回以内(土壌灌注は2回以内)

商品名: クリーンヒッター (有効成分: TPN, オキサジキシル)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤のみを使用する場合の使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数
キュウリ	べと病	1000倍	前日まで	3回以内	散布	4回以内(土壌灌注は2回以内)

(解説)
 上の2つの農薬には共通の有効成分TPNが含まれています。「TPNを含む農薬の総使用回数」は4回以内(土壌灌注は2回以内)と決められているので、ここではダコニール1000とクリーンヒッターをあわせて使用できる回数は4回までとなります。

最大4回使用での可能な組み合わせは
 ①ダコニール1000: 4回
 ②ダコニール1000: 3回+クリーンヒッター: 1回
 ③ダコニール1000: 2回+クリーンヒッター: 2回
 ④ダコニール1000: 1回+クリーンヒッター: 3回 となります。

平成一五年度税制改正で、消費税の仕組みが大きく変わりました。主な変更点は、次の二点です。

① 事業者免税点制度の適用上限が一、〇〇〇万円に引き下げ

新制度の適用で消費税の納税義務が生じるのは、平成一七年（平成一八年三月末日までに納税）からです。新たに課税事業者になるかどうかは基準期間となる平成

消費税制が改正されました



間がそれぞれ一時間、九二時間と約二〇時間の差が確認できました。

また、区画整理田での収量調査結果では、早生種で一〇アール当たり二五〇〇kgを超えるほ場もみられました。

レンコン経営において、安定した所得を確保するためには、規模拡大が必要となり、作業性の改善や収量アップなどが課題となりますが、今回の調査から、区画整理がレンコン経営の安定に大きく寄与することが確認されました。

一五年の課税売上高が一、〇〇〇万円を超えるかどうかで判断します。

② 簡易課税制度の適用上限が五、〇〇〇万円に引き下げ

基準期間の課税売上高が五、〇〇〇万円以下の事業者は、原則課税、簡易課税のいずれの方法も選択することができます。

また、新たに課税事業者となる場合には、消費税の課税事業者となった旨の届出書、簡易課税制度を選択する旨の届出書の提出等必要となる手続きがあります。届出書の各様式は、国税庁のホームページからダウンロードできます。

国税庁ホームページ
アドレス
<http://www.eta.go.jp/>
詳しくは最寄りの税務署にお尋ね下さい。

原則課税：納付税額＝（課税売上×5％）－（課税仕入れ×5％）
簡易課税：納付課税＝課税売上×1.5％（農家の場合）

石岡市

石岡市では転作作物として一〇〇haを超える蕎麦が作付けされています。

J A たち野では、この蕎麦粉を使い、毎年一月に農産物直売センターにおいて、蕎麦祭りを開催し、蕎麦打ちの実演や試食、直売などを行っています。

生産者と関係機関が一丸となって、品質の向上や収量増を目指し取り組んでいます。

ナシ新品種「あきづき」

農業技術研究機構果樹研究所で育成された新品種「あきづき」は豊水と新高の間に収穫される高品質のナシで、収量が多く食味良好な品種です。九月中旬下旬に収穫となり、豊水の収穫後期と七日程度重なります。新高よりは、ほぼ一〇日早く収穫できます。

現在までにみづ症などの生理障害の発生は認められず、日持ち性は室温で一〇〜一四日程度あります。黒ボク土では花芽の着生が不安定なことから「新水」で利用し

表 梨の各品種別収穫期 (土浦普及センター管内)

	8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
幸水									
豊水									
あきづき									
新高									

土浦市

一月一日に市民会館において、土浦市長が委員長を務める茨城県れんこん生産者大会実行委員会主催の大会が開催され生産者六〇〇人が集いました。

今回の大会は十年ぶりで「消費者に買ってもらうるれんこんを生産するため」をテーマとして四つのスローガンが採択されました。



一六年産米は分けつ期から出穂・登熟初期にかけて好天に恵まれたため、稈長、穂長が長く、また一穂粒数も多くイネの生育量は十分確保できました。千粒重はかなり重くなり、収量も目標を上回り、また、外觀形質も良好で、乳白米の発生はほとんど見られず、食味の基準である白米タンパクも適正レベルでした。

一七年度産の米作りに向けては次の点に留意して取り組みましょう。

① 土づくり
優良堆肥、土壌改良材（ようりん・ケイカル等）を積極的に施用する。

② 種子更新
品種の特性を備えた信頼できる採種圃産の優良種子を使う。

③ 田植時期の適正化
コシヒカリについて過剰分けつを抑制し、高温登熟を避けるため、五月五日〜一五日を中心とした田植とする。



表 水稻定点（コシヒカリ）の調査結果（八郷町柿岡）

	田植日 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	一穂 粒数 (粒)	登熟 歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)	白米 タンパク (%)
目標値				85~90	—	400	75	80	21.5	510	6.5以下
16年	5/11	8/3	9/7	90.2	18.3	391	80.9	86.2	22.8	532	6.4
15年	5/11	8/11	9/20	87.3	18.1	369	71.1	76.6	20.1	422	6.8
14年	5/9	8/3	9/17	84.7	17.9	450	67.1	83.1	21.4	540	6.1

レンコン田区画 整理の効果

土浦市手野地区では、現在レンコン田一五〇haの区画整理が進められており、約四〇パーセント完了しています。

このため普及センターでは、従来のレンコン田と区画整理田での作業性に差が見られるかどうか労働時間の実態を調査しました。その結果では、一〇a当りの労働時

④ 適正茎数管理
一株当り二〇〜二四本（m²当り三六〇本）になったら中干しを開始する（田植後三〇〜四〇日）。

⑤ 施肥
控えめの施肥量とする。基肥はチツソ成分で一〇a当り三kg程度。追肥は出穂前一五日（幼穂長四cm）に、一〇a当りチツソ成分で二kgを基準とする。なお、有機質肥料は五日程度追肥時期を早める（幼穂長一cm）。

⑥ 出穂後の水管理
出穂後三〇日までは落水しない。収穫直前までできるだけ通し水程度の水管理により根を健全化し、登熟・千粒重向上を図る。

⑦ 刈取適期を守る
帯緑率五〜一〇%が適期。

霞ヶ浦町

昨年一月に男女共同参画推進協議委員会が発足しました。委員会では、一月二五日の県推進大会に参加し、副委員長の貝塚一泰さんが大会スローガンの一つ「みんなで支え、みんなで築く農林漁業」ともに提案します。明日の経営」を発表しました。

今後、男女共同参画社会の実現を目指した活動が期待されます。

千代田町

昔は盛んだった養蚕も今では少なくなりましたが、千代田町養蚕婦人研究会（代表田崎秀子）では繭を使ったクラフトを作り、色々なイベントへの出品など活動が活発になっています。

絹織物の原料として貴重であった繭は、繭クラフトとして新たな感動を地域におこしています。



普及だより

平成17年8月1日 NO19
 土浦地域農業改良普及センター
 土浦農業改良普及事業推進協議会
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F
 土浦市真鍋5-17-26
 電話(直通) 029(822)7242
 (FAX) 029(824)0918

省力・高品質化を目指した水稲疎植栽培の取り組み



移植現地研究会の様子； 疎植も可能な定植機(右上)、定植の様子(右下)

J A やさと稲作部会と普及センターでは省力・低コスト及び品質向上をねらいとして水稲疎植栽培について実証圃を設置して検討を開始しました。

五月一〇日に移植の現地研究会を開催し、使用苗箱の削減を中心とする省力化について検討を行いました。その結果、実測栽植密度は一・九株/m²、一株植え付け本数六本、苗箱数一・二・五箱/一〇aで移植できました。

疎植栽培を行うと、苗箱や培土・種籾、育苗管理、苗の運搬を含めた移植作業等の育苗関係資材や労力の削減の他、品質向上効果が期待されます。

疎植栽培では無効分けつが少なくになるとされています。草型は開帳型となり、受光態勢が改善され生育が旺盛になったり、茎がたく充実し倒伏防止に有効であるとされています。このようなことから千粒重、整粒歩合、食味の向上も期待されており、今後の生育、収量、品質を調査しながら水稲疎植栽培技術のメ리트、デメリットを明らかにしていきます。



表 現地における腐熟度判断基準(原田:1983)

色	黄色～黄褐色(2)、褐色(5)、黒褐色～黒色(10)
形状	現形をとどめる(2)、かなりくずれる(5)、ほとんど認めない(10)
臭気	ふん尿臭強い(2)、ふん尿臭弱い(5)、たい肥臭(10)
水分	強く握ると指の間からしたたる……………70%以上(2) 強く握ると手のひらに、かなり付く……………60%前後(5) 強く握っても手のひらに、あまり付かない……………50%前後(10)
最高温度	50℃以下(2)、50～60℃(10)、60～70℃(15)、70℃以上(20)
滞積期間	家畜ふんだけ……………20日以内(2)、20～2ヶ月(10)、2ヶ月以上(20) 作物と収穫残さとの混合物……………20日以内(2)、20～3ヶ月(10)、3ヶ月以上(20) 木質物との混合物……………20日以内(2)、20～6ヶ月(10)、6ヶ月以上(20)
切り返し回数	2回以下(2)、3～6回(5)、7回以上
強制通気	なし(0)、あり(10)

◇ 完熟たい肥の見分け方

たい肥は完熟のものが良いと言われていますが、はっきりした「完熟」の基準がなく、見た目から判断することは難しいものです。

現場である程度の判断をするため、表に簡易な熟度判定基準を示しますので参考にしてください。

() の中の内の点数の合計が三〇点以下を未熟、三〇～三〇点を中熟、三〇～三〇点を完熟と評価します。

良質なたい肥投入による土づくりをすすめましょう

茨城農業改革では、良質な農産物は健康な土から作られるという認識のもと、耕種農家・畜産農家の連携による良質なたい肥の生産と流通体制の整備や土壌診断による地力向上対策等の土づくり運動を展開しています。

普及センターでは、地域のたい肥生産者情報を記載したたい肥マップ(左図)を作成し、流通を支援してまいりますので活用下さい。また土壌診断により、ほ場毎に適切な肥料設計を行うことをお勧めします。

入学定員

科名	定員	主な対象	修業年限
農学科	20	高等学校等を卒業した者及び平成18年3月に卒業又は修了見込みの者	2年
経営情報学科	10		2年
果樹園芸学科	10		2年
野菜学科	20		2年
花き園芸学科	10		2年

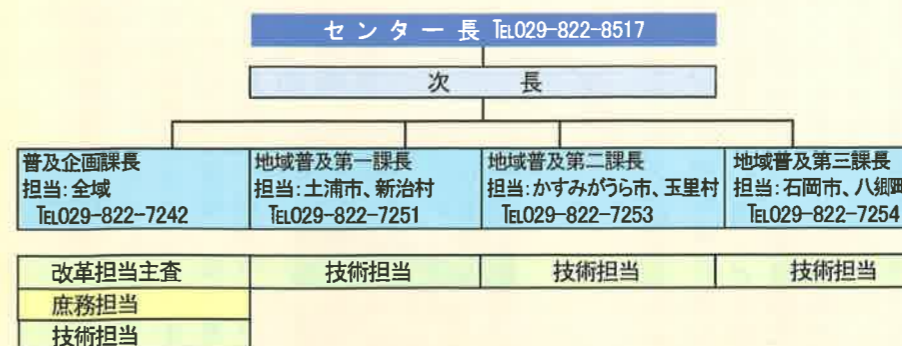
募集人員・願書受付・入学試験

◆推薦入試	
・募集人員	各学科定員の60%
・願書受付期間	平成17年10月3日(月)～10月17日(月)
・試験日	平成17年10月28日(金)
・選抜方法	小論文・口述試験(個別面接)・調査書等
◆一般入試(学科)	
・募集人員	各学科定員の40%(前期後期の割合は概ね3:1)
・願書受付期間	前期 平成17年12月19日～18年1月18日 後期 平成18年2月6日～2月20日
・試験日	前期 平成17年1月31日(火) 後期 平成18年3月3日(金)
・選抜方法	筆記試験・口述試験・調査書等

●問い合わせ先

茨城県立農業大学校入試事務局
 TEL029-292-0010
 FAX029-292-0903

表 平成17年度土浦地域農業改良普及センター活動体制



普及センターの新体制について

茨城県では元々ある茨城農業を確立するため、競争力のある産地づくりと担い手の確保育成を中心に農業改革を推進しています。今年四月から、より地域と連携した普及活動を展開するため、活動体制を従来の技術分担体制から地域分担体制としました(表)。

営農トピックス

買ってもらう米づくり

〜成熟期から乾燥・調製〜

水稲は、出穂後四〇〜四五日で収穫期を迎えます。八月初旬に出穂した場合は、九月一〇日頃になります。水田の落水時期が早いと登熟不良になり、品質・食味が低下する原因になるので、八月いっぱいには間断灌水を心がけましょう。コシヒカリの収穫適期は、青みを帯びた籾の割合(帯緑籾率)が五%(一穂あたり四〜五粒)になったときです。早刈りは未熟粒が多く、千粒重が低下し、刈り遅れでは籾割れ粒が多くなりますので気を付けましょう。



籾から籾とし、白い紙やカルトンの上で帯緑籾率を確認しましょう。(上写真)

収穫後は通風乾燥、加熱乾燥の順を守り、胴割米の発生を避けましょう。穀温四〇℃以下、毎時乾燥率は〇・七〜〇・八%を目標として、籾水分で一五・〇%に仕上げます。過乾燥にならないよう気をつけましょう。一・八五mmの網目で丁寧な調製を行いましょう。

気になる梨情報

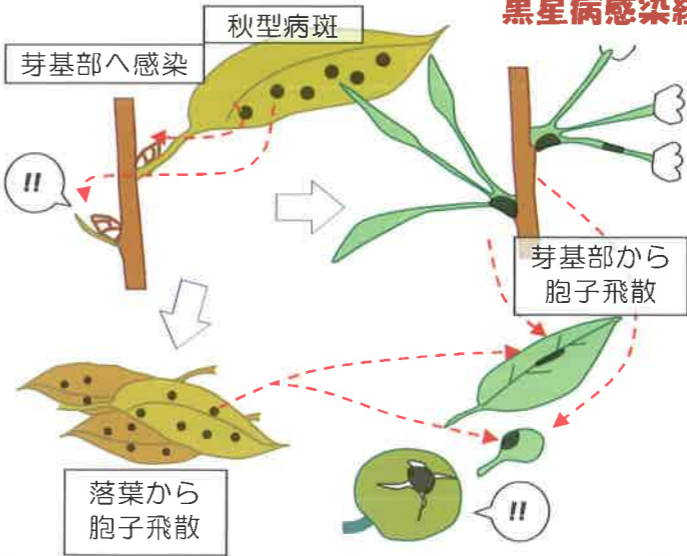
〜黒星病の秋季防除〜

今年ナシの黒星病が多く発生しました。写真は黒星病の秋型病斑です。平成一六年の秋は雨が多く、秋型病斑(写真)が多く見られるほ場がありました。最近の実証試験結果から、この病斑は春にかけて芽基部



秋型病斑

黒星病感染経路



への感染源となるだけでなく、春まで落葉として残っていると、降雨によって胞子を飛散し、葉や果実への直接の伝染源となります。ナシは収穫が終わると、園に入る機会が減り、管理も手薄になりがちです。しかし、収穫直後からすぐに来年のナシ作りが始まっています。病害虫による早期落葉を防ぎ、また来年の感染源を減らすためにも収穫後の防除が大変効果があります。

町から村から

新治村

エコファーマー認定交付式

四月一日、普及センターにおいてエコファーマー認定交付式が開かれ、梨生産者四名(JA土浦新治梨部会)に認定書が交付されました。エコファーマーとは有機物を施用した土作り、化学肥料の低減、化学農薬の削減を生産力を維持しながら取り組む生産者で、県知事から認定されます。認定式では、「持続性の高い農業生産方式を導入し、安全で、安心な消費者のより高いニーズに応えられるよう、努めていきたい」と決意が述べられました。



かすみがうら市

ブルーベリーの摘取りが始まる

かすみがうら市新作物推進協議会は市の水田と畑地農業の活性化を図る目的で、平成十二

未来をつくる農業者に育て!

農業学園開講式開催する

普及センターでは、就農もいない農業者の基礎的農業技術習得支援と、地域の仲間づくりを目的に、農業学園を開催しています。六月九日に平成一七年度農業学園開講式を一九名の参加により開催しました。



当日は、青年農業士会長を務めている坂本和彦氏から「私の農業経営と夢」と題した講話を頂きました。さわやかで親しみやすい坂本氏の人柄に惹かれ、「親と別の

作目を導入したいが、どのように説得すればいいか」等ざつとばらんな質問が出され、会場は和やかな雰囲気になりました。今年、土づくりや病害虫診断、マーケティングなどの基礎的知識の習得を目的とした『基礎講座』と、経営類型に合わせ選択する『専門講座』(果樹・花き・作物・畜産・野菜・パソコン簿記コース)を

実施していく予定です。

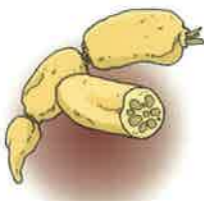


農業学園に参加してみたい方がおられましたら、お気軽に普及センターまでご連絡下さい。皆さんで楽しい農業学園を作りましょう。

農業の楽しさ大切さを知る

女性農業士によるふれあい農業体験交流会を開催

土浦地域女性農業士会(二〇名)は、平成十三年度から食農教育の一環として毎年農業体験交流会を開催しています。



今年度は、地域特産である「梨」について理解を深めるため、つくば国際短期大学の学生に呼びかけ「梨の摘果作業体験交流会」を開催しました。

参加した学生は、みんな初めての体験でしたが、「今まで何も考えずに食べていたが、この体験を通して梨を作る大変さを知り、大学とは違う環境でいろいろ教えてもらい、とても良い体験をした」等の声がかかれ、僅か半日の体験でしたが良い体験ができたようです。今後、十一月に第二回目として収穫した梨の加工等について体験交流会を計画しています。このような機会を通して農業の楽しさや大切さを知り、農業への関心が高まるきっかけになればと思います。



年に組織されました。現在、組合員一七名によりブルーベリー五・五畝が栽培されています。今年(定植四〜五年)は着果、肥大とも良好で、六月中旬から八月下旬の予定で摘取りが始まりました。



八郷町

欧州系ブドウ栽培講習会を開催

六月二〇日八郷町根小屋の田中ぶどう園で、茨城県ぶどう組合連合会の欧州系ブドウ栽培講習会が、ブドウ生産者約一〇〇名が参加して開催されました。



様々な種類がある欧州系ブドウ、約一五品種が植えられている園で、品種特性に応じた栽培管理法を学ぶことができました。

普及だより

平成18年3月10日 NO20
 土浦地域農業改良普及センター
 土浦農業改良普及事業推進協議会
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F
 土浦市真鍋5-17-26
 電話(直通) 029(822)7242

梨の産地活性化に向けて 土浦地域梨産地育成研究会開催される



近年、梨の販売単価が安く梨経営が不安定となっております。梨の経営を立て直して、産地の元気を取り戻すためには、消費者が本気に欲しい商品を作ることが今以上に真剣に考え、皆んなで話し合っただけでは実践していくことが必要です。

このため、去る二月二日「梨の産地活性化に向けて」をテーマに、平成一七年度土浦地域梨産地育成研究会を土浦合同庁舎において開催しました。最初にホシノ・アグリ・コミュニケーション研究所代表の星野康人氏に「梨のマーケティング戦略を考える」と題して講演をお願いしました。梨の消費者ニーズを的確に捉えた産地戦略を立て、産地のマーケティング活動を展開していくための考え方について、優良事例を紹介しながらのわかりやすい内容でした。次に県園芸研究所病害虫研究室富田恭範主任研究員から、梨の主要病害の効果的防除法による減農薬栽培の取り組みについて解説をお願いしました。

この日は一〇〇名を超える参加者があり、多くの質問が飛び交い、関心の高さが伺えました。これを契機に梨産地が活性化しさらに飛躍出来るよう頑張ります。

食品衛生法改正とポジティブリスト制導入について

多くの農薬には、農産物への残留基準が設定されていますが、ポジティブリスト制とは、基準が設定されていない農薬等も一定量以上含まれる食品の流通を禁止する制度で、平成一八年五月二九日に施行予定です。

基準が設定されていない農薬とは?

食の安全・安心のため農薬等には一定の残留基準が設定されていますが、基準値としては

- ① 残留基準(食品衛生法基準)
- ② 暫定基準(コーデックス基準)
- 登録保留基準、海外基準)

従って、①②以外の農薬が基準が設定されていない農薬等に該当します。

現在基準が設定されていない農薬等に人の健康を損なうおそれのない量として、一律基準値として0.01ppmが検討されています。この制度により、食品としてすべての農作物に、農薬ごとの基準値が設定されます。

農薬使用者の守るべきこと

以上のように、基準値設定が予

定されていますが、一般的に残留基準をオーバーする要因としては次のことがあげられます。

- ① 適用作物、濃度、使用量、使用時期、総使用回数等を守らなかったとき。
 - ② 隣のほ場に散布した農薬がかかってしまったとき。
 - ③ 防除器具の洗浄をしないため、前に散布した農薬が散布液に混じってしまったとき。
 - ④ 以前に土壌残留性の高い農薬を使用したとき。
- 以上のようなことが原因で残留値オーバーにつながりますが、特に農薬散布中の隣接ほ場、作物への飛散防止は、特に注意すべきです。

農薬・ドリフト飛散低減対策

- ・ 散布時の風向き風速に注意
 - ・ 散布圧力、風量 を調節
 - ・ 散布ノズルの種類 を選択
 - ・ ネットの使用
 - ・ 粒剤等の選択
- ドリフト問題は過去にも事例が見受けられましたが、農薬を散布する場合には、今まで以上に細心の注意が必要となります。同時に適正なる農薬の使用遵守と生産履歴の記帳に努めましょう。

平成十七年度認定農業三士

今年度新たに次の方々が知事から認定を受けました。農業改革推進等地域リーダーとしての活躍が期待されます。

○農業経営士



かすみがうら市
松信 久さん

ハウスキュウリを中心とした経営で、堆肥、油粕等の有機質主体の施肥、太陽熱土壌消毒等環境に配慮した栽培を行っています。施設園芸研究会石岡支部の支部長を務めています。

○女性農業士



石岡市
鶴井靖子さん

イチゴ中心に水稲、加工バラレイショを組み合わせた経営です。安全・安心の消費者ニーズに対

応するため減農薬・減化学肥料による特別栽培農産物認証制度を導入したイチゴ栽培を行っています。

○青年農業士



かすみがうら市
山口賢一さん

水稲+レンコンの経営です。レンコンの土づくりとして、完熟豚糞堆肥を施用し、品質向上と水質等環境保全にも配慮しています。



石岡市
久保田和博さん

ハウスキュウリに水稲、麦の普通作を組み合わせた経営です。キュウリは味にこだわったブルームキュウリを栽培しています。



営農 トピックス



レンコンの病害虫防除対策

レンコンの病害虫防除は登録農薬が少なくなってきたりしている現状を考えると、圃場準備期から体系的に行うことが重要です。以下に対策例を挙げましたので参考とし実施してください。

○圃場準備期

ウキクサアブラムシ

あぜなみ等で畦畔を補修し他圃場からの水の流入を防ぐ。雑草は害虫の温床となるため、圃場及び圃場周辺の除草を行う。

スクミリンゴガイ

発生が見られる圃場では、二月三月に石灰窒素六〇kg/一〇アール施用し耕起する(窒素一〇kgに相当、元肥から減肥)。

○植え付け時

アブラムシ

植え付け時にアドマイヤー粒剤を施用する。また、圃場周辺にシルバートープを設置する。

○植え付け後

アブラムシ

圃場周辺及び圃場内の除草(ウキクサ等)を行う。
オルトラン粒剤の散布(五月)

アドマイヤー粉剤D散布(六月) オレート液剤、粘着くん液剤の散布(発生後の使用、条件により薬害発生恐れがあり注意) ウキクサ

モゲトン粒剤の散布(多発時)。

発生初期は極力すくい取る。また、作業後の長靴を良く洗い、他圃場への移動を防ぐ。

イネネクイハムシ

トレホン粒剤散布(七月上旬)

褐斑病

トツジンM粉剤の散布(六月) 発病田の罹病茎葉を焼却、ハウス及びハウス周辺の防除を徹底する(ハウス除湿、薬剤散布)。

※農薬を使用する前には必ずラベルを読み、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し誤った使用を行わないようにしてください。

アスターの露地切花栽培



アスター(エゾギク)

は夏の切花として古くから栽培されています。露地では七月九月出荷ですが、益彼岸需要と重なり鮮度を保つことから地場消費向け栽培に適します。

○は種・育苗

移植栽培ではプラグトレイや箱育苗を行います。発芽適温は一八〜二〇℃で、二五℃以上では発芽が抑制されるので注意します。用土は適度に湿らせ、は種後薄く覆土します。直は栽培は気温が十分高くなつてから一六四〜五粒播きとし、本葉三枚頃間引きします。

○定植

連作すると立枯性病害が多発するので毎年新しいほ場で栽培します。酸性土壌では生育が劣るのでpH六、七に改良し、窒素リン酸加里は各一五kg/アール施します。四月下旬以降、本葉四〜五枚で定植し(一五cm角四〜六条植)、地表面の過乾を防ぎます。

○その後の管理

と出荷

到伏防止にフラワーネットを早めに取り替えます。発蕾直後に中心花を摘むと開花揃いが良くなります。二〜三輪開花したら採花し、下葉を欠いて出荷します。

アスター露地栽培(例)

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
8月盆咲						●	●	●	●	●	●	●	●	松本系、改良くない、ステラ系
9月彼岸咲										●	●	●	●	駒止の桜、中晩生種
9月電照										●	●	●	●	松本系、ステラ系

○は種 ●定植 ☆電照 ※5月中旬以降のは種では草丈確保のため電照を

土浦市

第二四回花の展覧会開催される

一月二八日、市内にある県南生涯学習センターにおいて、地域で生産される花を広く紹介し、生産振興と消費拡大を図ることを目的として、土浦市花の展覧会が開催されました。



アルストロメリア等切花、ユキヤナギやヤナギ類等の枝物、フラワーアレンジメント他合計二八七点が出品され、会場は一足早い春が来たようでした。

五里村

JA茨城玉川れんこん部会銘柄産地指定される

玉川地区では、他産地に先駆け周年出荷の取り組みを進め、現在ハウス、露地栽培を含め一〇二畝、作付され、六月からの出荷をしています。この度、新しい銘柄産地指定要件のもと、ネットカタログの登録や栽培履歴の記帳等、安全安心

プロジェクト発表会 ―身近なところから課題解決―

一月二〇日に、平成一七年度土浦地域農村青少年プロジェクト実績発表会を開催しました。

プロジェクト発表二名、意見発表一名、活動事例発表三名が資料やパワーポイントなどを用いて、発表報告しました。

プロジェクトは自分の家の経営から課題を見つけ、解決のために取り組んできたものです。発表後、審査員からは目のつけどころが良く、今後も継続して取り組んで欲しいと講評がありました。

意見発表では、後継者クラブの活動や今後の抱負などについて発表がありました。これからの活動が期待されます。



最後に、オセアニア(オーストラリア、ニュージーランド)研修を終えた三名から、現地の農業情勢や研修内容について報告を行いました。日本とは農業をする環境

が異なり、ファームステイ等を通して、得るものが多かったようです。多くの後継者に海外研修を通して広い視野を養ってもらいたいと思います。

普及センターでは、次年度もこのような会を開催する予定です。

平成17年度土浦地域農村青少年プロジェクト実績発表会



多くの人に身近な課題への取り組みを紹介してもらいたいと思います。

女性農業者の活動 ―経営管理アプリを目指した講座の開催―

農業経営のパートナーとして活躍している農村女性は、経営の担い手としての役割が期待されています。このため普及センターでは、女性農業者と農業経営士の夫人を対象に、パソコン利用の農業簿記講座を開催しています。

参加者は、ほとんどがあまりパソコンを利用していない初心者です。今年度はまず、パソコン入門、販売用チラシ、インターネット、

―女性起業家への支援―



組んでいます。今後は我が家の農業収支の実態把握や経営分析に役立たいと、皆さん頑張っています。

エクセル等農業経営に関連するパソコンの利用方法を初歩から取り組みました。

また、税理士の先生を招き青色申告や消費税についての講義も受けながらパソコン農業簿記に取り組んでいます。

―女性起業家への支援―

直売活動が年々活発化する中、農産物の加工品販売に取組む方が多くなっています。農業所得に反映できる加工活動へと発展するための知識や技術習得のための講座を今年から開催しています。

主な内容は、起業計画、表示、衛生管理、包装技術、包装デザイン、先進地研修等です。研修は、各自の商品を持参して実際に現物を見ながら行いました。包装デザインでは、工夫次第で商品価値が見違えるほど上がることを知り、参加者の関心が集まっています。

田村から



への取組み、夏場のストレッチール箱氷詰め出荷による高鮮度対策により、市場等からも高い評価を受け、県から青果物銘柄産地更新指定を受けました。

石岡市

酒造用米の実績検討会開催

JAひたち野では酒米としてのチヨシキの生産に初めて取り組みました。



一二月九日に契約先の石岡酒造にて、一七年度の実績検討会および次年度生産対策検討会を行いました。また生産ラインを見学し、酒造好適米の精米歩合や品質等について研修を行いました。